

# 希少個体群保護林

- 後潟ヒバ希少個体群保護林 【東青】（青森）
- 眺望山ヒバ希少個体群保護林 【東青】（青森）
- 北上山御堂松希少個体群保護林 【北上川上流】（盛岡）
- 斗蔵山ウラジロガシ遺伝資源希少個体群保護林 【宮城南部】（仙台）
- 弥太郎山針葉樹希少個体群保護林 【宮城南部】（仙台）
- 獅子ヶ鼻湿原希少個体群保護林 【子吉川】（由利）

※ 【 】：森林計画区名、（ ）：森林管理（支）署名

# 希少個体群保護林のモニタリング調査

## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：希少個体群の生育・生息環境となる森林の状況

### ○調査項目1：森林タイプの分布等状況調査

[評価の観点] 保護林内及び周辺の森林タイプの構成が変化することで対象個体群の生育・生息環境に影響が生じていないか

- ・資料調査：最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林情報図（森林タイプごとの面積・分布）を整理

### ○調査項目2：樹木の生育状況調査

[評価の観点] 樹木の生育が対象個体群の生育・生息環境として適切な状態にあるか

- ・森林概況調査：調査表を利用し、樹木の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測して樹木の生育状況を定点観察

### ○調査項目3：下層植生の生育状況調査

[評価の観点] 対象個体群の生育・生息環境として必要な植物は豊富か、外来種等が増えているか

- ・森林概況調査：調査表及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内に出現する全ての種を記録し、下層植生の生育状況を定点観察

## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：森林の被害状況

### ○ 調査項目1：山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査

[評価の観点] 災害がどこで発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：災害履歴情報等（災害復旧、防災関連事業）を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理

### ○ 調査項目2：病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査

[評価の観点] 病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査
- ・ 森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・ 森林詳細調査：プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査

# 希少個体群保護林のモニタリング調査

## 観点2 価値

基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している

指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

○調査項目：保護対象樹種の生育・生息状況調査

[評価の観点] 対象個体群が減少していたり被害を受けていないか

- ・森林詳細調査：プロット内の対象樹種を計測し、全天球写真を利用してプロットの状況を定点観察

# 希少個体群保護林のモニタリング調査

## 観点3 利活用

基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている

指標：学術研究での利用

○調査項目：論文等の発表状況調査

[評価の観点] 主にどのような学術研究に利用されているか

- ・資料調査：インターネット等を利用し学術論文数等を整理、森林管理署に入林状況を確認

## 観点4 管理体制

基準：適切な管理体制が整備されている

指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

○調査項目：巡視の実施状況等調査

[評価の観点] 保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業及び取り組みとなっているか

- ・聞き取り調査：森林管理署への聞き取り

後潟ヒバ希少個体群保護林  
【東青森林計画区】

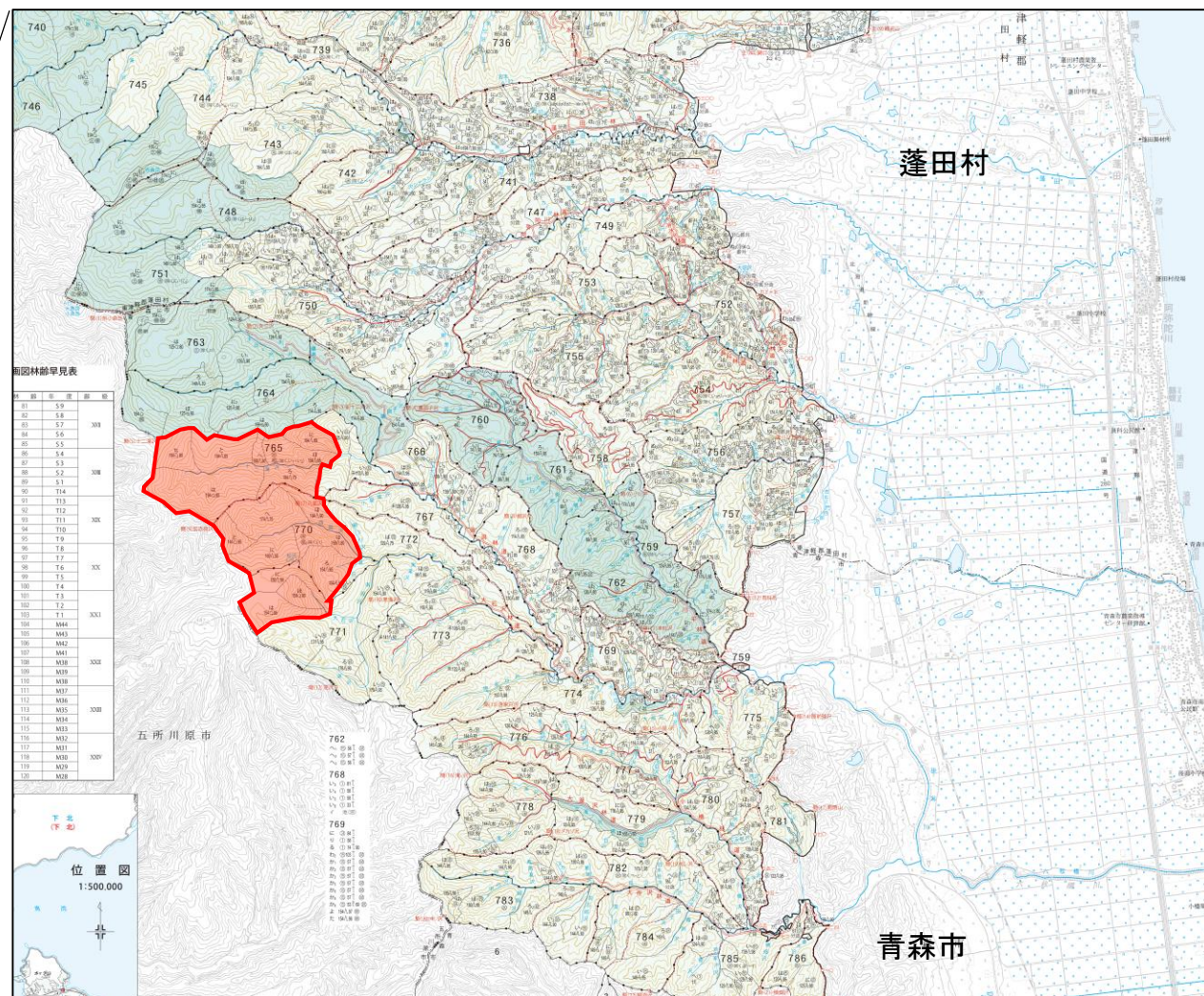
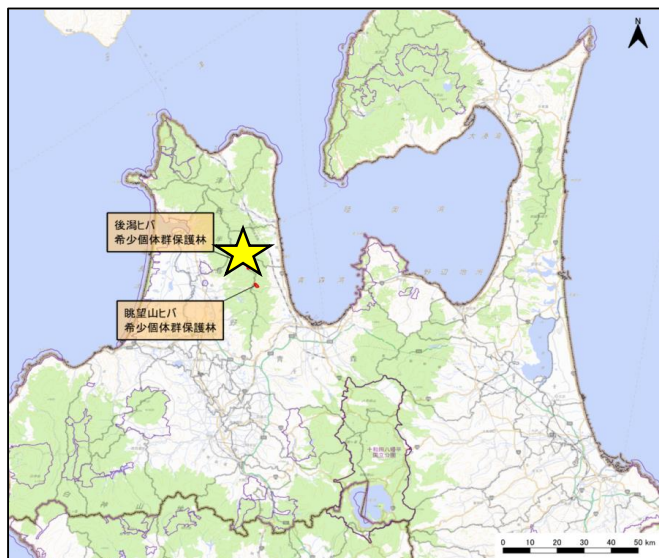


# 後潟ヒバ希少個体群保護林

## <概要>

- ・ 位置 青森県青森市後潟山国有林
- ・ 個体群 ヒバ単純林、ヒバ・ブナ混交林
- ・ 面積 154.14ha
- ・ 法指定 水源かん養保安林
- ・ 署等 青森森林管理署

・ 設定目的等  
下部のヒバ単純林からヒバ・ブナ混交林を経てブナ林に移行する林分を自然の推移に委ねた場合の変化を観察・記録し学術上及び森林施業上の資料とする



## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：希少個体群の生育・生息環境となる森林の状況

### ○調査項目1：森林タイプの分布等状況調査

[評価の観点] 保護林内及び周辺の森林タイプの構成が変化することで対象個体群の生育・生息環境に影響が生じていないか

- ・資料調査：最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林情報図（森林タイプごとの面積・分布）を整理

### ○調査項目2：樹木の生育状況調査

[評価の観点] 樹木の生育が対象個体群の生育・生息環境として適切な状態にあるか

- ・森林概況調査：調査表を利用し、樹木の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測して樹木の生育状況を定点観察

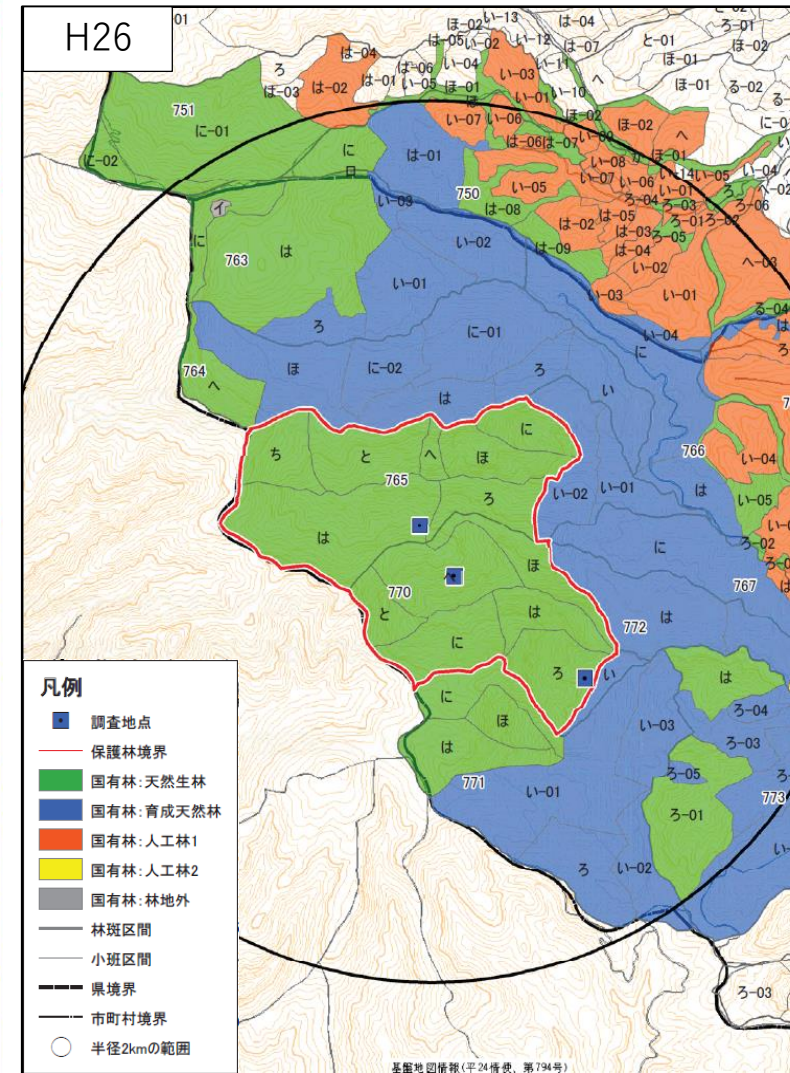
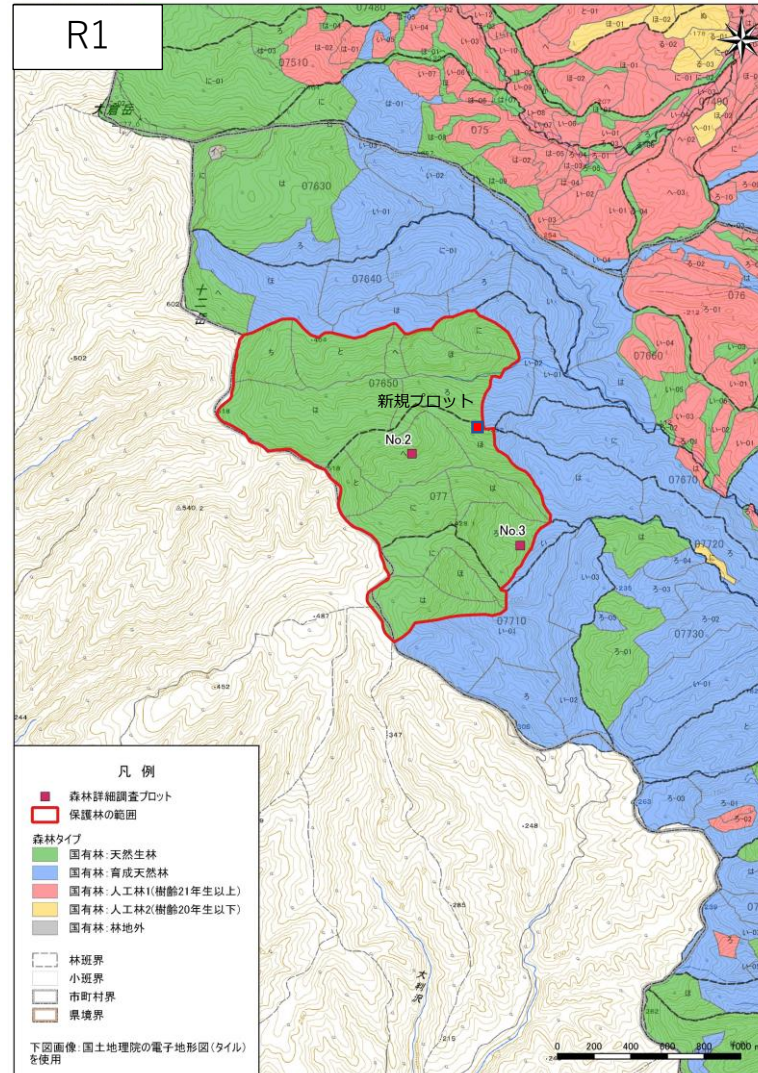
### ○調査項目3：下層植生の生育状況調査

[評価の観点] 対象個体群の生育・生息環境として必要な植物は豊富か、外来種等が増えていないか

- ・森林概況調査：調査表及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内に出現する全ての種を記録し、下層植生の生育状況を定点観察



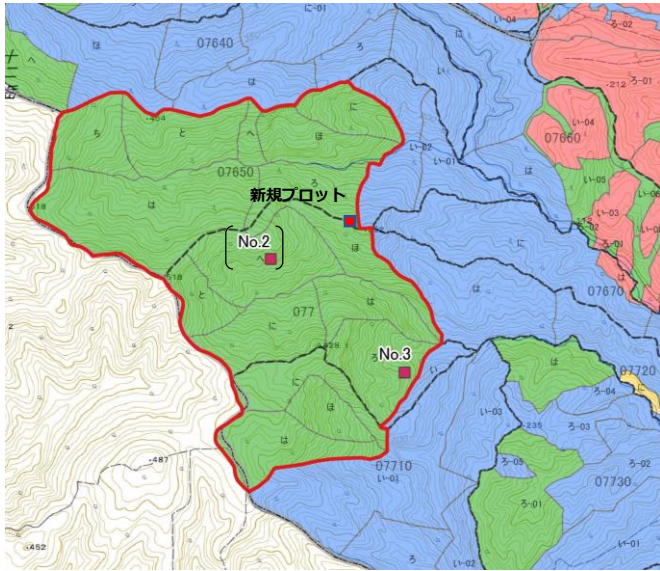
▼ 森林タイプの分布状況



保護林内及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった

※プロットNo.2については、アクセス林道が通行不能であったため、類似林分に調査プロットを新規設定した。

▼樹木の生育状況



プロット3



全天球写真 プロット3

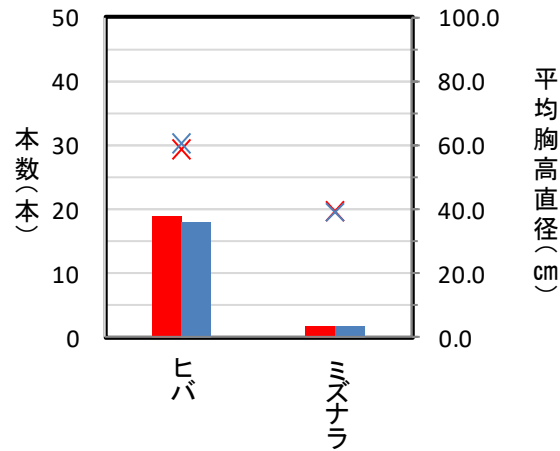
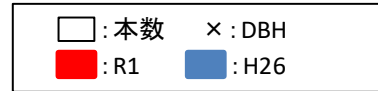


新規プロット

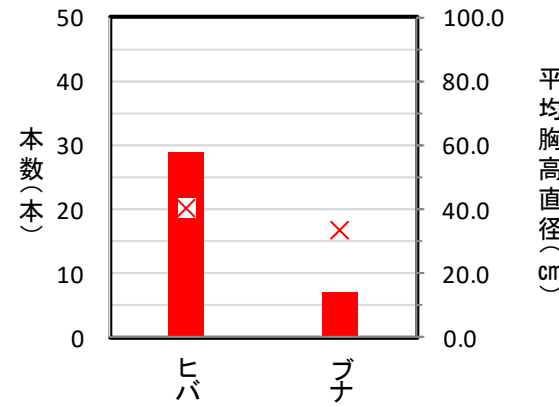


全天球写真 新規プロット

▼樹木の生育状況

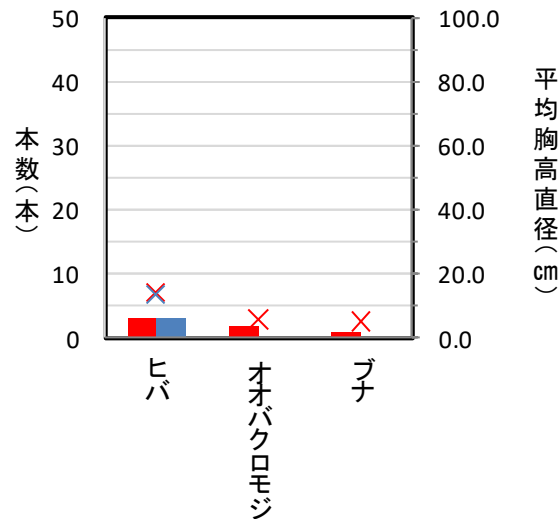


プロット1

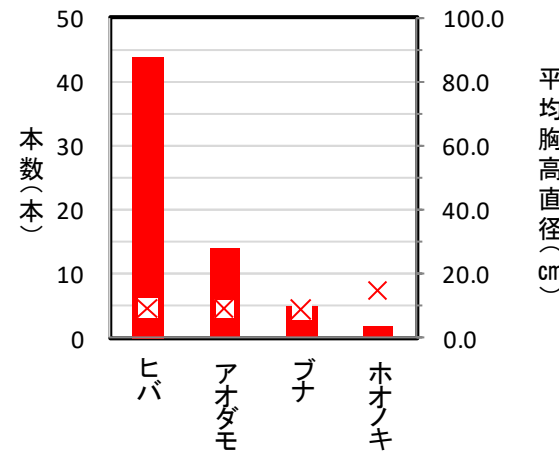


新規プロット

大径木の樹種別本数・胸高直径



プロット1



新規プロット

中径木の樹種別本数・胸高直径

樹木の生育状況に目立った変化は見られなかった

▼下層植生の生育状況

種名	プロット3		新規プロット
	R1	H26	R1
ヒバ	◎	○	◎
オオバクロモジ	◎	○	○
コハウチワカエデ	○	○	○
コシアブラ	○	○	○
アオダモ	○	○	○
ブナ	○	○	
ノリウツギ	○	○	
アオハダ	○	○	
ハリギリ	○	○	
リョウブ	○	○	
オオカメノキ	○	○	
ムラサキシキブ		○	○
ホウロクイチゴ	○		
ヤマウルシ	○		
ヤマモミジ	○		
ハイヌツゲ	○		
タラノキ	○		
ミズナラ		○	
ホオノキ		○	
ハウチワカエデ		○	
アカイタヤ		○	
タカノツメ		○	
イワナシ		○	
ハクウンボク		○	
ガマズミ		○	
ゼンマイ		○	
ヤマソテツ	○	○	○
シシガシラ	○	○	○
ツルリンドウ	○	○	○
ツルアリドオシ	○	○	○
イワガラミ	○	○	
チゴユリ	○	○	
ミヤマイトチシダ	○		○
ツルアジサイ	○		○
ツタウルシ	○		
ハリガネワラビ		○	
ジンバイソウ		○	
シノブカグマ			○
ヤマブドウ			○
チシマザサ			○
クモキリソウ属の一種	○		
スマレ属の一種	○		
種数	27種	29種	15種



プロット3

新規プロット

下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった

注1) H26年度はプロット内全てが、R1年度はN区,S区が調査範囲であるため、調査面積は異なる。

注2) ○：確認種、◎：優占種(R1のみ)

## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：森林の被害状況

### ○ 調査項目1：山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査

[評価の観点] 災害がどこで発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：災害履歴情報等（災害復旧、防災関連事業）を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理

### ○ 調査項目2：病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査

[評価の観点] 病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査
- ・ 森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・ 森林詳細調査：プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査

## ▼山火事・山腹崩壊等の災害及び病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況

山火事	記録なし
山腹崩壊・地すべり	記録なし
病虫害	記録なし
鳥獣害	記録なし
気象害	記録なし

※管轄森林管理署への聞き取り、現地調査による

**森林被害は確認されなかった**

## デザインに関する評価

- 基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている
- 指標：希少個体群の生息・生育環境となる森林の状況、森林の被害状況

- ・ 森林タイプの分布及び樹木・下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった
- ・ 外来種は確認されなかった
- ・ 森林被害は確認されなかった

# 希少個体群保護林のモニタリング調査

## 観点2 価値

基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している

指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

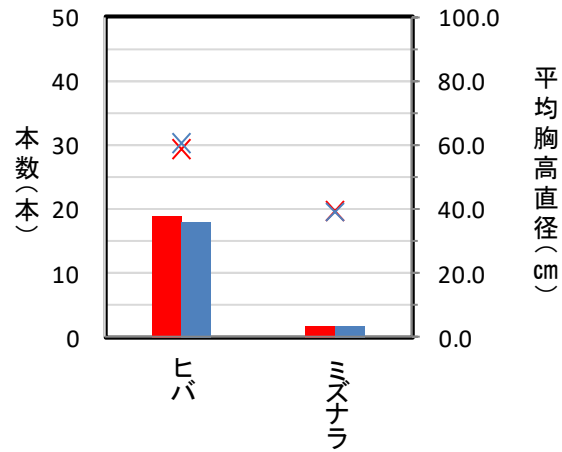
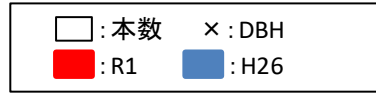
○調査項目：保護対象樹種の生育・生息状況調査

[評価の観点] 対象個体群が減少していたり被害を受けていないか

- ・森林詳細調査：プロット内の対象樹種を計測し、全天球写真を利用してプロットの状態を定点観察

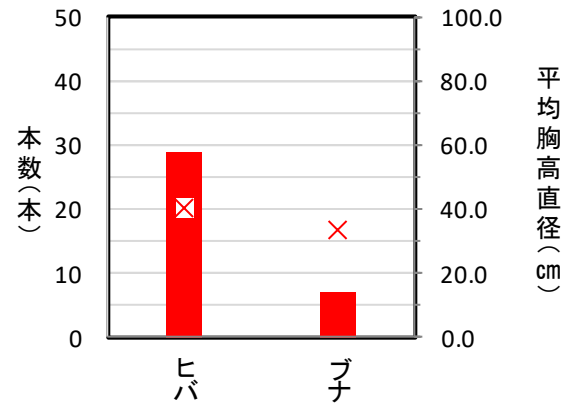


▼ヒバの生育状況



プロット1

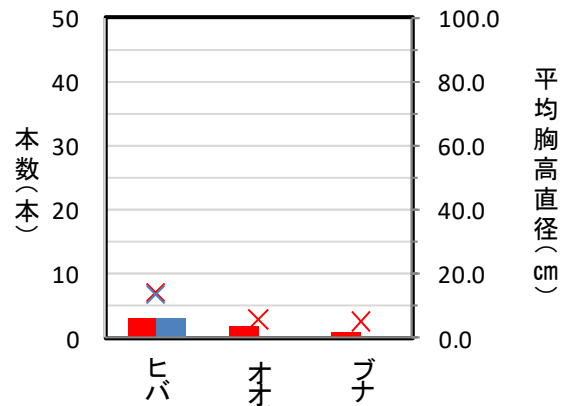
大径木の樹種別本数・胸高直径



新規プロット

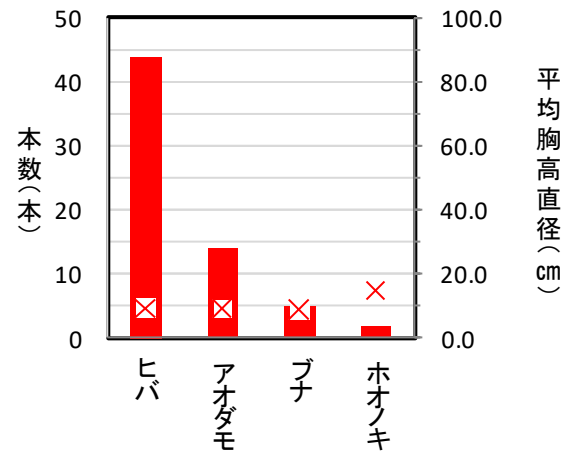


プロット3



プロット1

中径木の樹種別本数・胸高直径



新規プロット

・ 保護対象のヒバの生育状況に目立った変化は見られなかった

・ 保護対象のヒバに被害は確認されなかった

## 価値に関する評価

- 基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している
- 指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

- ・ 保護対象のヒバにの生育状況に目立った変化は見られなかった
- ・ 保護対象のヒバに被害は確認されなかった

## 観点3 利活用

基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている

指標：学術研究での利用

○調査項目：論文等の発表状況調査

[評価の観点] 主にどのような学術研究に利用されているか

- ・資料調査：インターネット等を利用し学術論文数等を整理、森林管理署に入林状況を確認

## 観点4 管理体制

基準：適切な管理体制が整備されている

指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

○調査項目：巡視の実施状況等調査

[評価の観点] 保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業及び取り組みとなっているか

- ・聞き取り調査：森林管理署への聞き取り

## ▼学術研究での利用状況

- ・インターネットによる論文検索では、学術論文等は確認されなかった
- ・森林管理署への聞き取りでは、学術研究での入林は確認されなかった

## 利活用に関する評価

- 基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている
- 指標：学術研究での利用

**学術研究への利用は確認されなかった**

## ▼巡視の実施状況

- ・青森森林管理署において、定期的な巡視を実施している。

## 管理体制に関する評価

- 基準：適切な管理体制が整備されている
- 指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

**必要な管理体制が取られている**

**前回調査から大きな変化は認められなかった**

**特に課題は確認されなかった**



<p>今回の評価を踏まえた 今後の対応について</p>	<p>「保護・管理及び利用に関する事項」 (保護林管理方針書)</p>	<p>モニタ リング 間隔</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な巡視を継続</li> <li>・ 10年後に モニタリングを実施</li> </ul>	<p>自然の推移に委ねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。</p> <p>[※現行どおりとする]</p>	<p>10年</p>

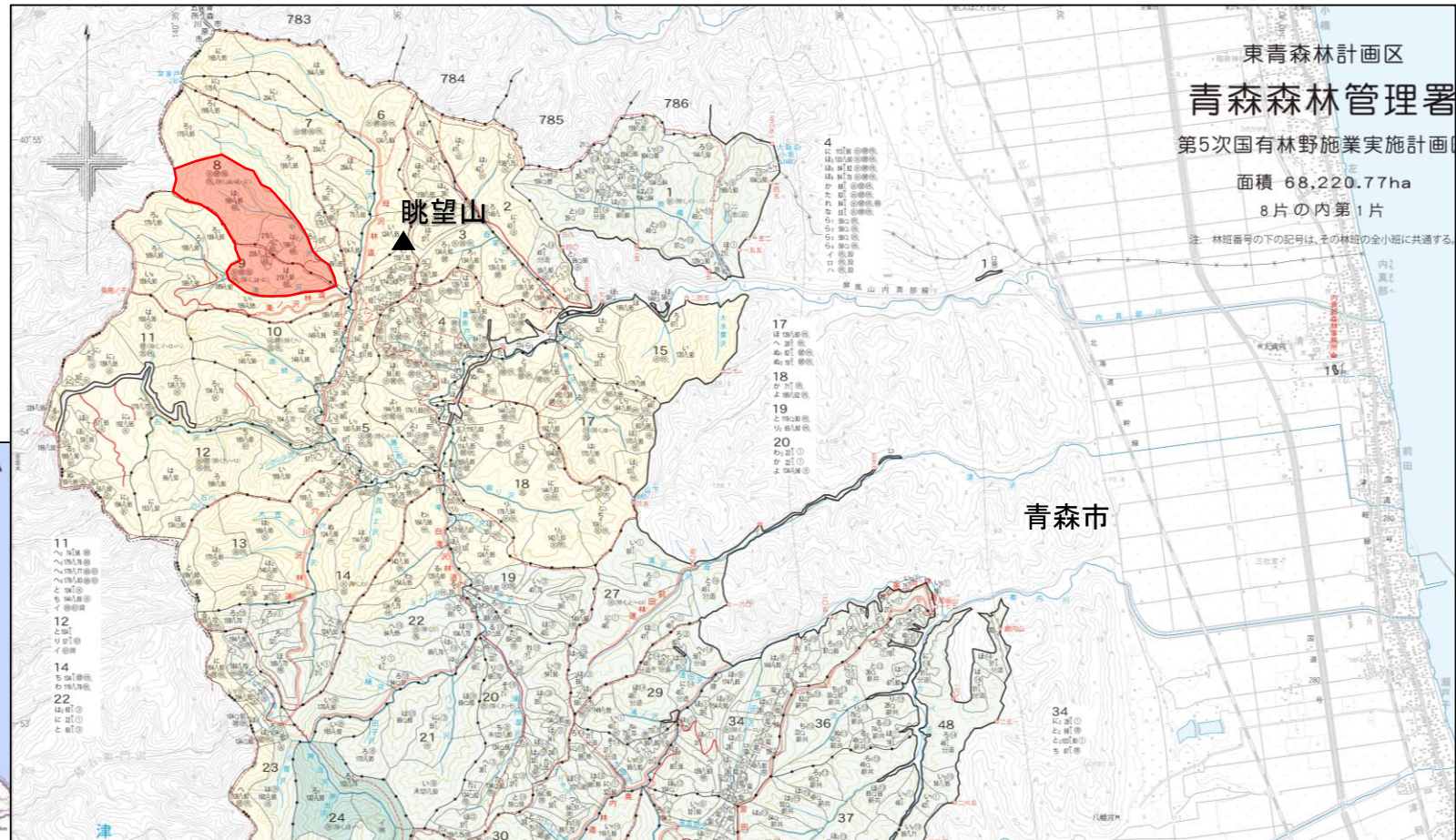
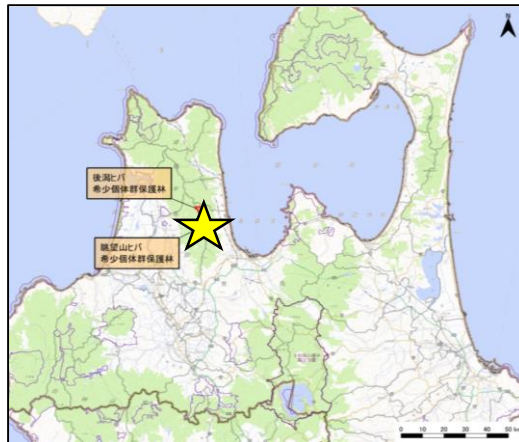
# 眺望山ヒバ希少個体群保護林 【東青森林計画区】



# 眺望山ヒバ希少個体群保護林

## <概要>

- ・ 位置 青森県青森市内真部山国有林
  - ・ 個体群 原始的なヒバ天然林
  - ・ 面積 44.81ha
  - ・ 法指定 水源かん養保安林 (ほか)
  - ・ 署等 青森森林管理署
- ・ 設定目的等 原始的なヒバ天然林を保存する



# 希少個体群保護林のモニタリング調査

## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：希少個体群の生育・生息環境となる森林の状況

### ○調査項目1：森林タイプの分布等状況調査

[評価の観点] 保護林内及び周辺の森林タイプの構成が変化することで対象個体群の生育・生息環境に影響が生じていないか

- ・資料調査：最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林情報図（森林タイプごとの面積・分布）を整理

### ○調査項目2：樹木の生育状況調査

[評価の観点] 樹木の生育が対象個体群の生育・生息環境として適切な状態にあるか

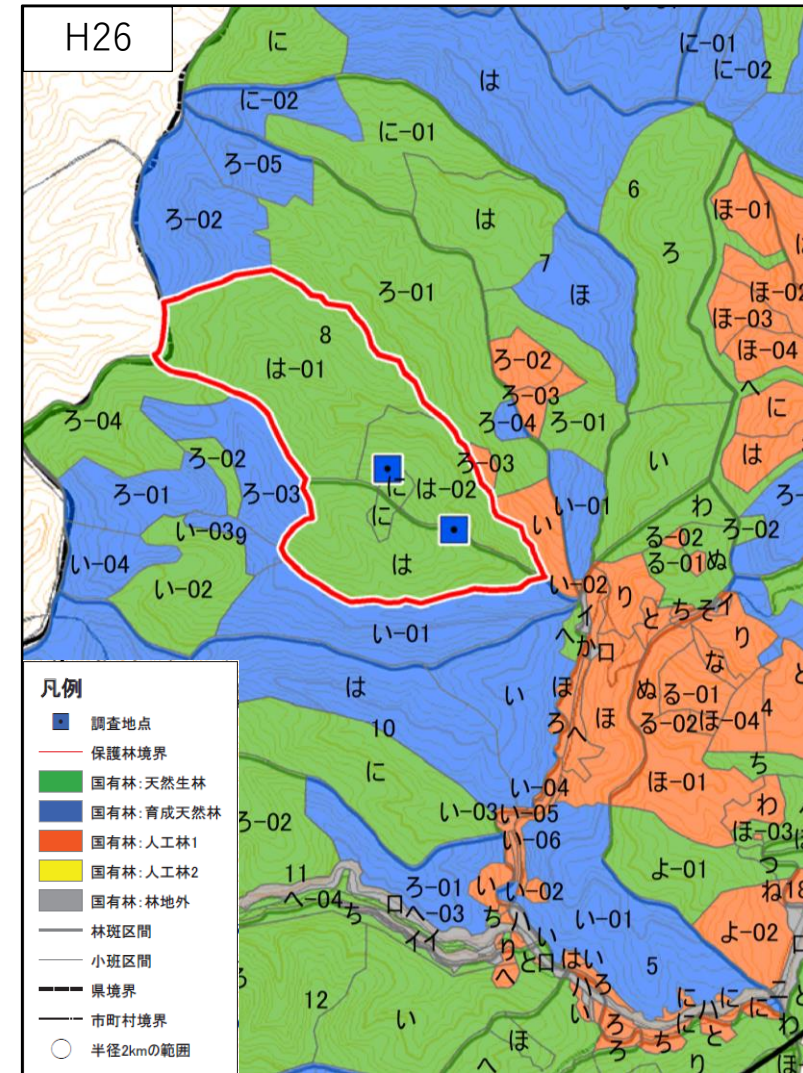
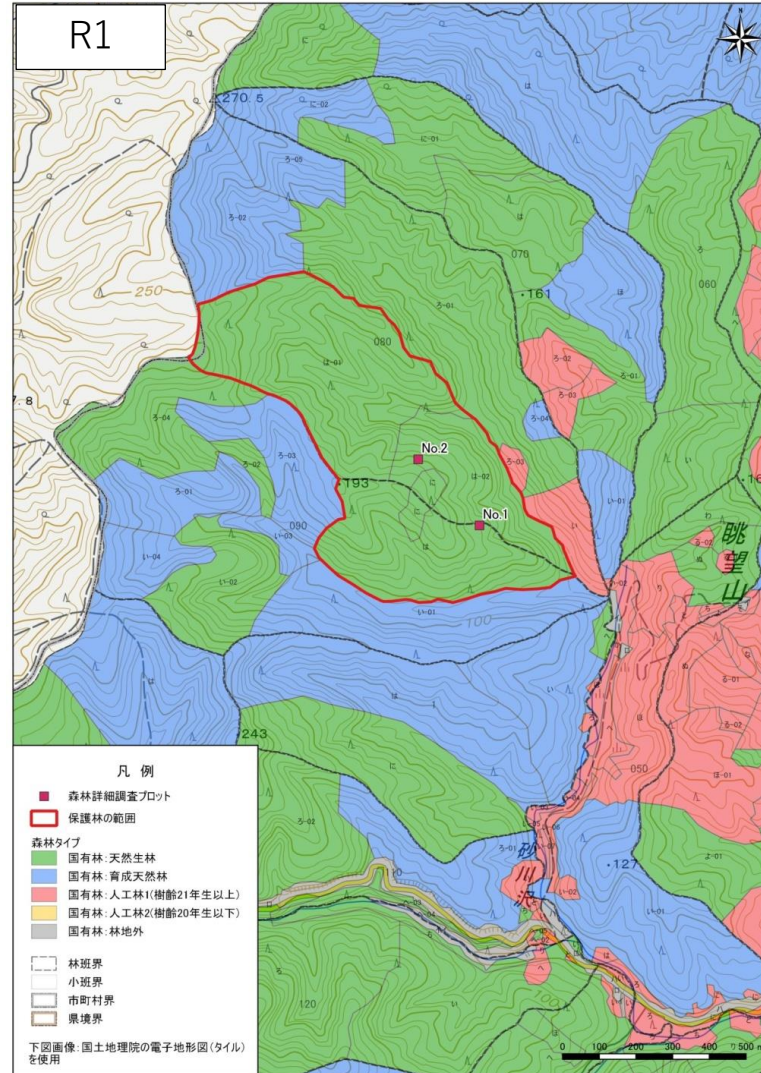
- ・森林概況調査：調査表を利用し、樹木の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測して樹木の生育状況を定点観察

### ○調査項目3：下層植生の生育状況調査

[評価の観点] 対象個体群の生育・生息環境として必要な植物は豊富か、外来種等が増えていないか

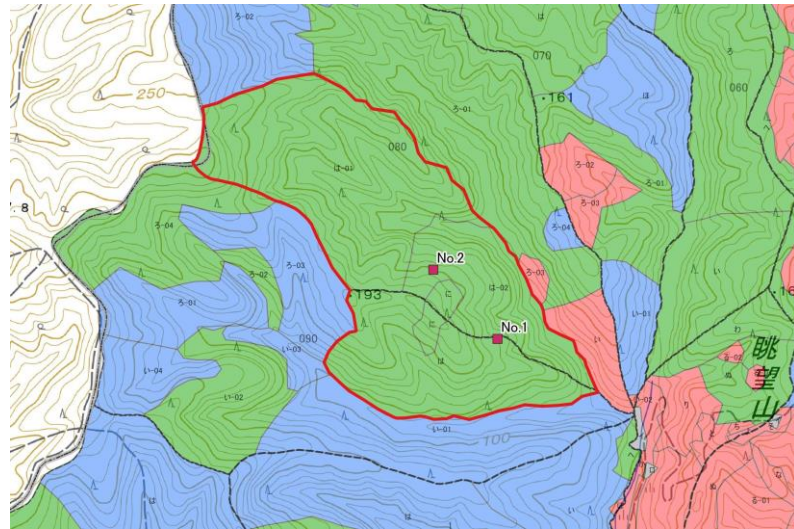
- ・森林概況調査：調査表及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内に出現する全ての種を記録し、下層植生の生育状況を定点観察

▼ 森林タイプの分布状況



保護林及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった

▼樹木の生育状況



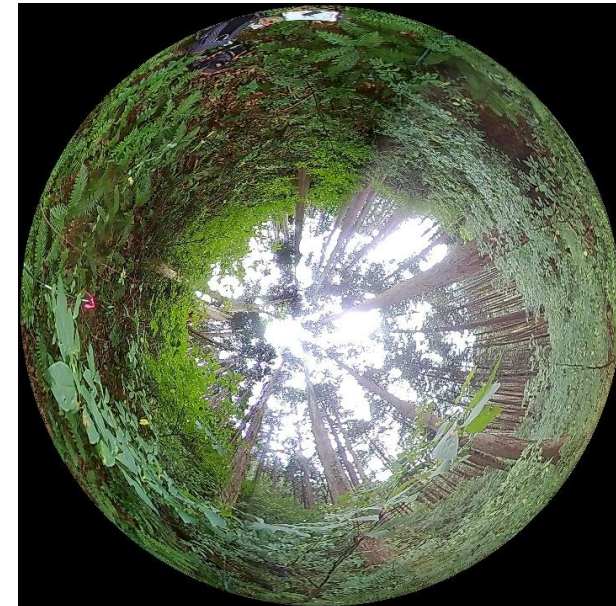
プロット1



全天球写真 プロット1

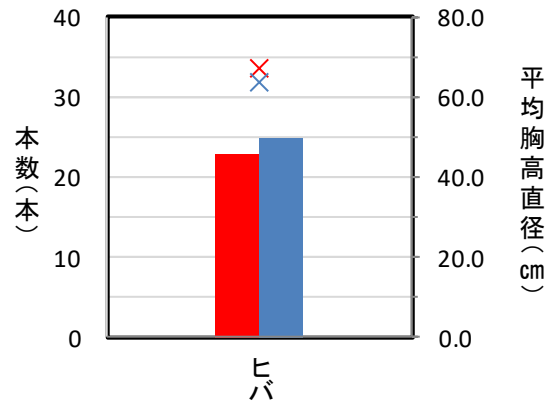
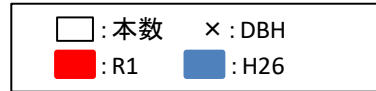


プロット2

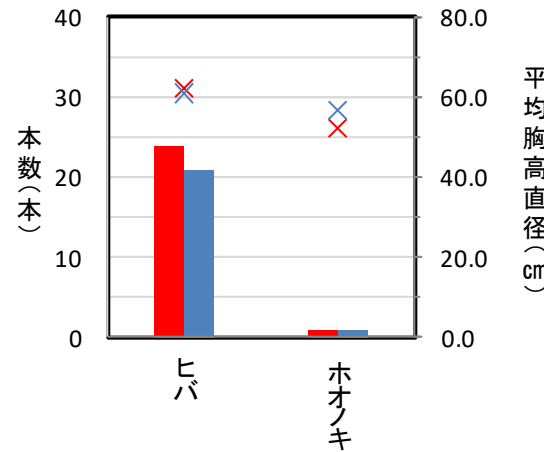


全天球写真 プロット2

▼樹木の生育状況

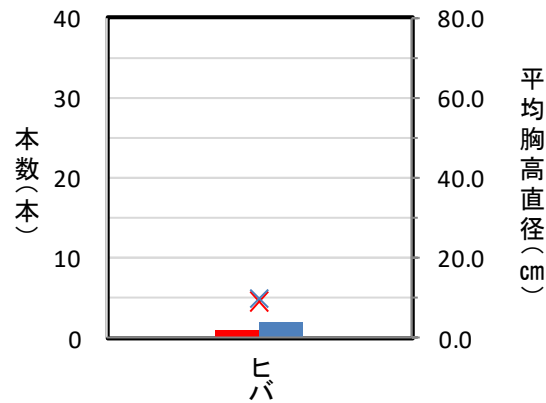


プロット1



プロット2

大径木の樹種別本数・胸高直径



プロット1

確認され  
なかった

プロット2

中径木の樹種別本数・胸高直径

樹木の生育状況に目立った変化は見られなかった

なお中径木は確認されなかったが、下層植生に稚樹及び実生等は確認されている（後述）

▼下層植生の生育状況

種名	プロット1		プロット2	
	R1	H26	R1	H26
ヒバ	◎	○	○	○
ハイヌガヤ	○	○	○	○
オオバクロモジ	○	○	◎	○
ヒメアオキ	○	○	○	○
オオカメノキ	◎	○		○
コシアブラ	○		○	○
ツルアジサイ	○		○	
アオハダ	○		○	
アオダモ	○			○
ハクウンボク		○		○
ホオノキ			○	○
ヒメモチ			○	○
クリ	○			
ヤマモミジ	○			
エゾアジサイ		○		
ノリウツギ		○		
ウワミズザクラ		○		
ハイヌツゲ		○		
マツブサ			○	
ハウチワカエデ			○	
サワフタギ				○
ムラサキシキブ				○
ヤマソテツ	◎	○	◎	○
イワガラミ	○	○	○	○
ツタウルシ	○	○	○	○
ミヤマイタチシダ	○		○	○
ホソバナライシダ		○	○	○
ミゾシダ		○	○	○
シンガシラ			○	○
ツルリンドウ	○	○		
ツルアリドオシ		○		○
チゴユリ	○	○		
ツクバネソウ	○	○		
スマレサイシン	○			
ツバメオモト	○			
ヒョウノセンカタバミ		○		
サラシナショウマ			○	
ウマノミツバ			○	
スゲ属の一種		○		
スマレ属の一種		○		
種数	20種	22種	20種	20種



プロット1

プロット2

下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった  
ヒバの稚樹及び実生等が多く確認された

注1) H26年度はプロット内全てが、R1年度はN区,S区が調査範囲であるため、調査面積は異なる。 注2) ○：確認種、◎：優占種(R1のみ)



## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：森林の被害状況

### ○ 調査項目1：山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査

[評価の観点] 災害がどこで発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：災害履歴情報等（災害復旧、防災関連事業）を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理

### ○ 調査項目2：病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査

[評価の観点] 病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査
- ・ 森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・ 森林詳細調査：プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査

## ▼山火事・山腹崩壊等の災害及び病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況

山火事	記録なし
山腹崩壊・地すべり	記録なし
病虫害	記録なし
鳥獣害	記録なし
気象害	記録なし

※管轄森林管理署への聞き取り、現地調査による

**森林被害は確認されなかった**

## デザインに関する評価

- 基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている
- 指標：希少個体群の生息・生育環境となる森林の状況、森林の被害状況

- ・ 森林タイプの分布及び樹木・下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった
- ・ 外来種は確認されなかった
- ・ 森林被害は確認されなかった

# 希少個体群保護林のモニタリング調査

## 観点2 価値

基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している

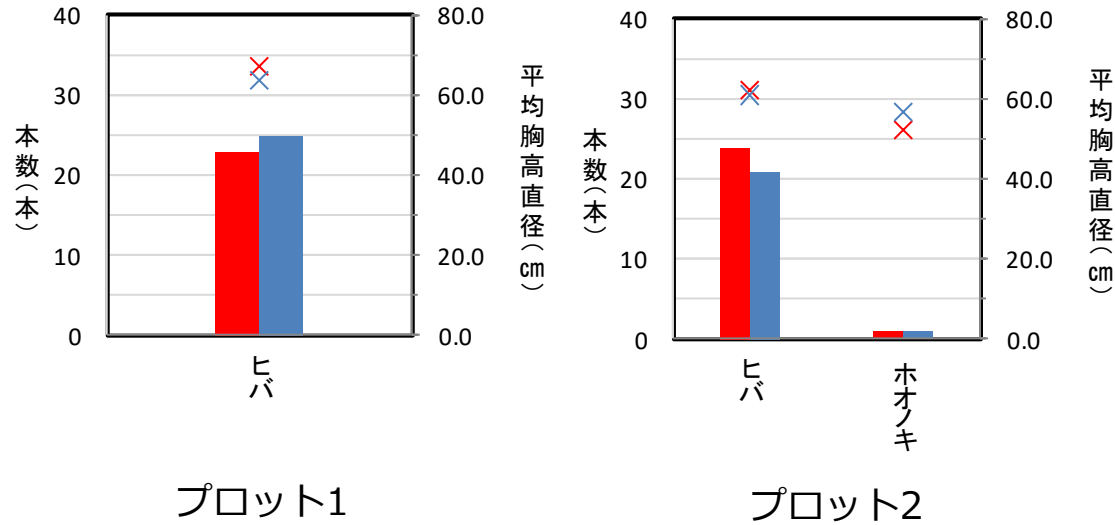
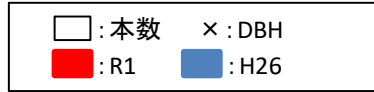
指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

○調査項目：保護対象樹種の生育・生息状況調査

[評価の観点] 対象個体群が減少していたり被害を受けていないか

- ・森林詳細調査：プロット内の対象樹種を計測し、全天球写真を利用してプロットの状況を定点観察

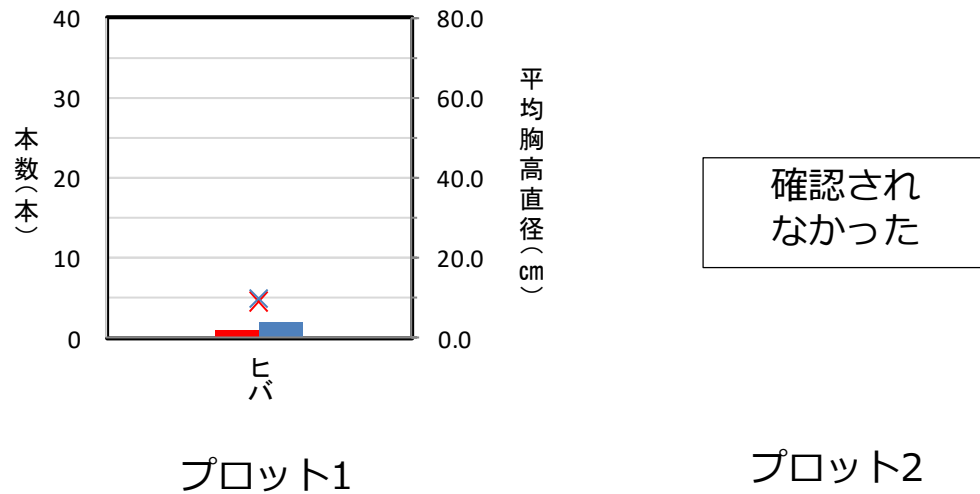
▼ヒバの生育状況



大径木の樹種別本数・胸高直径



プロット2



中径木の樹種別本数・胸高直径

- ・ 保護対象のヒバの生育状況に目立った変化は見られなかった
- ・ 保護対象のヒバに被害は確認されなかった

## 価値に関する評価

- 基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している
- 指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

- ・ 保護対象のヒバの生育状況に目立った変化は見られなかった
- ・ 保護対象のヒバに被害は確認されなかった

# 希少個体群保護林のモニタリング調査

## 観点3 利活用

基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている

指標：学術研究での利用

○調査項目：論文等の発表状況調査

[評価の観点] 主にどのような学術研究に利用されているか

- ・資料調査：インターネット等を利用し学術論文数等を整理、森林管理署に入林状況を確認

## 観点4 管理体制

基準：適切な管理体制が整備されている

指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

○調査項目：巡視の実施状況等調査

[評価の観点] 保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業及び取り組みとなっているか

- ・聞き取り調査：森林管理署への聞き取り

## ▼学術研究での利用状況

- ・インターネットによる論文検索では、学術論文等は確認されなかった
- ・森林管理署への聞き取りでは、学術研究での入林は確認されなかった



## 利活用に関する評価

- 基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている
- 指標：学術研究での利用

**学術研究への利用は確認されなかった**

## ▼巡視の実施状況

- ・青森森林管理署において、定期的な巡視を実施している。  
保護林内に遊歩道が整備されており、柵の破損・枯枝・危険木の有無を確認し、必要に応じて処理を行っている。
- ・ヒバに興味のある一般市民から保護林の案内を依頼されることがあり、その際には案内を実施している。

## 管理体制に関する評価

- 基準：適切な管理体制が整備されている
- 指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

**状況に対応した必要な管理体制が取られている**

**前回調査から大きな変化は認められなかった**

**特に課題は確認されなかった**

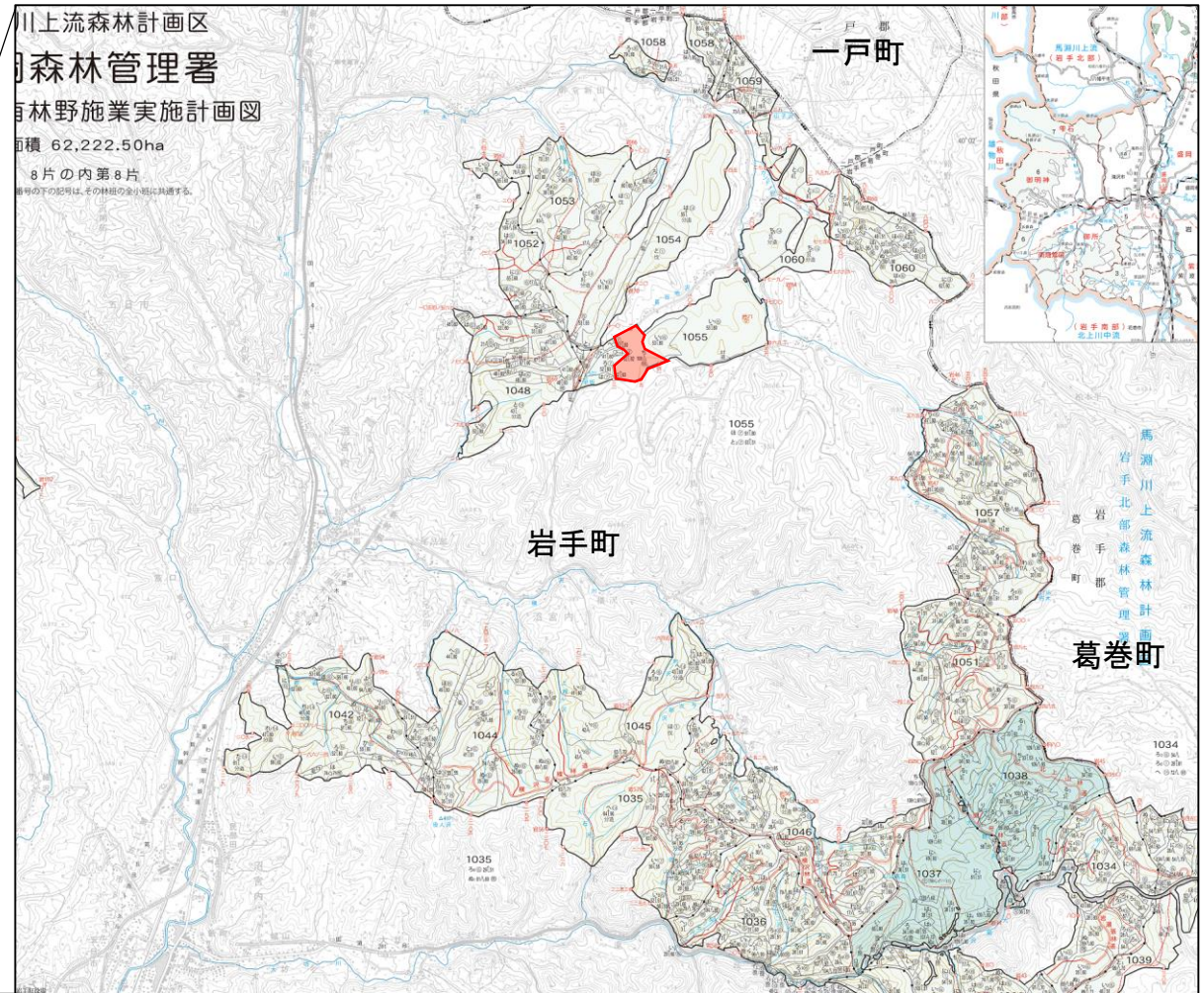
<p>今回の評価を踏まえた 今後の対応について</p>	<p>「保護・管理及び利用に関する事項」 (保護林管理方針書)</p>	<p>モニタ リング 間隔</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な巡視を継続</li> <li>・ 10年後に モニタリングを実施</li> </ul>	<p>自然の推移に委ねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。</p> <p>[※現行どおりとする]</p>	<p>10年</p>



# 北上山御堂松希少個体群保護林

## <概要>

- ・位置 岩手県岩手町北上山国有林
- ・設定目的等 南部アカマツの系統をくむ「御堂松」の保存。
- ・個体群 アカマツ天然林
- ・面積 10.33ha
- ・法指定 特になし
- ・署等 盛岡森林管理署



## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：希少個体群の生育・生息環境となる森林の状況

### ○調査項目1：森林タイプの分布等状況調査

[評価の観点] 保護林内及び周辺の森林タイプの構成が変化することで対象個体群の生育・生息環境に影響が生じていないか

### ○調査項目2：樹木の生育状況調査

[評価の観点] 樹木の生育が対象個体群の生育・生息環境として適切な状態にあるか

- ・森林概況調査：調査表を利用し、樹木の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測して樹木の生育状況を定点観察

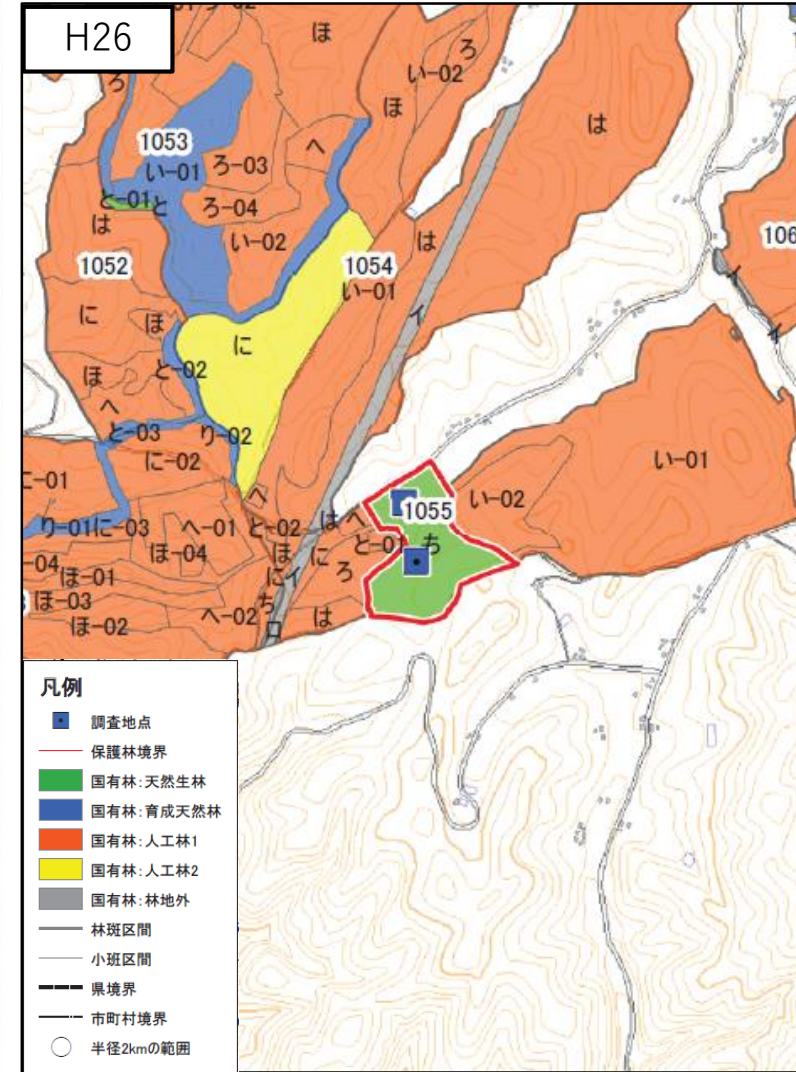
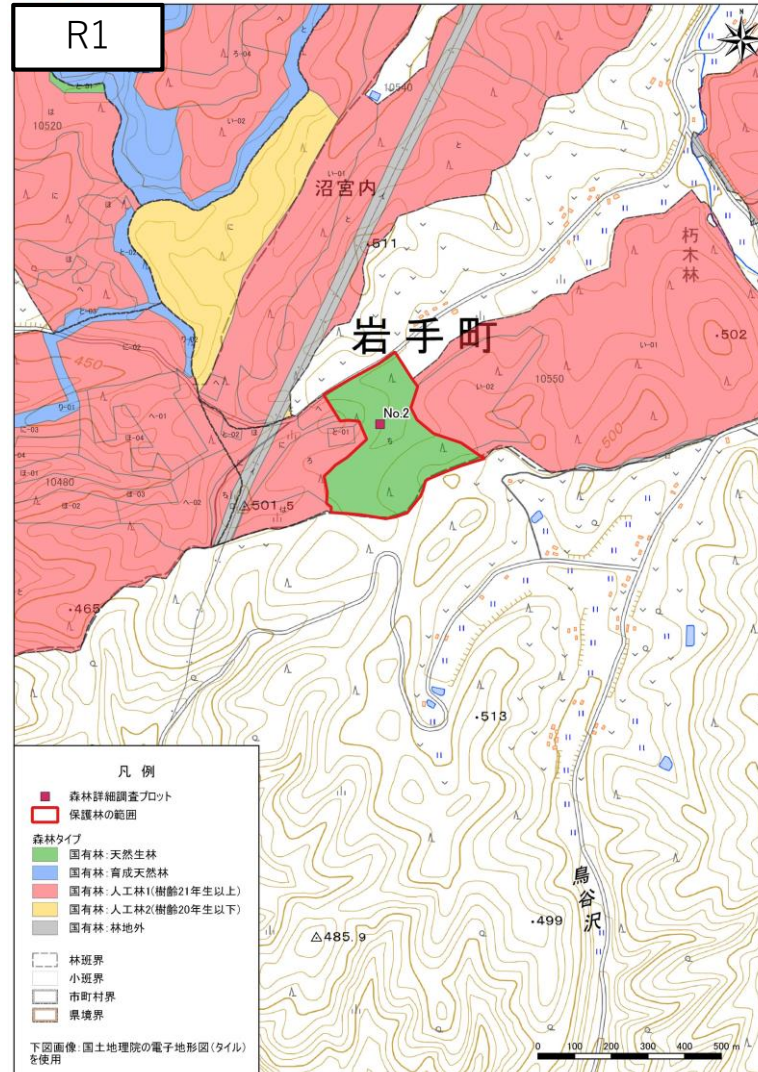
### ○調査項目3：下層植生の生育状況調査

[評価の観点] 対象個体群の生育・生息環境として必要な植物は豊富か、外来種等が増えているか

- ・森林概況調査：調査表及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内に出現する全ての種を記録し、下層植生の生育状況を定点観察



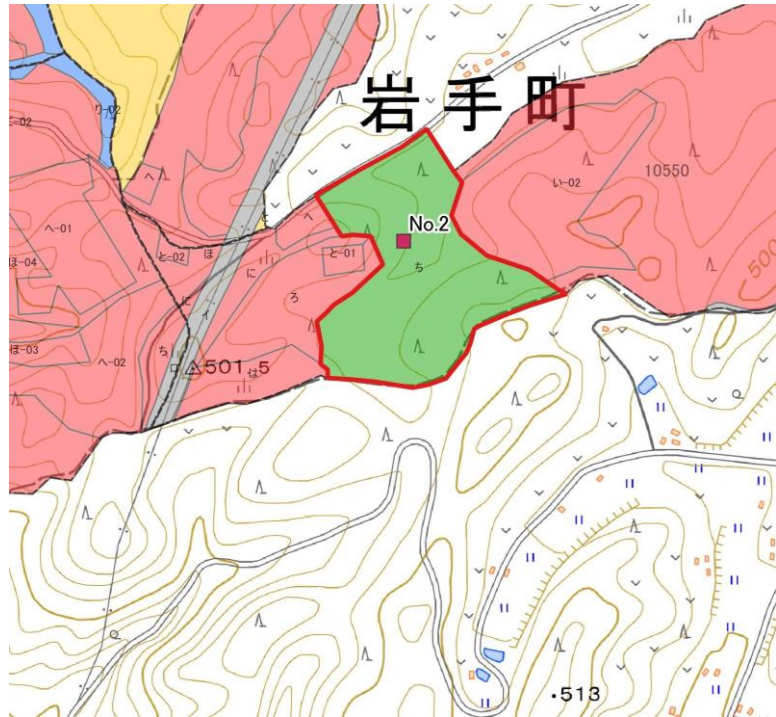
▼ 森林タイプの分布状況



保護林及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった

※類似林分と見られるプロットについては、効率的な事業執行の観点から、一方を調査対象としなかった。

▼樹木の生育状況



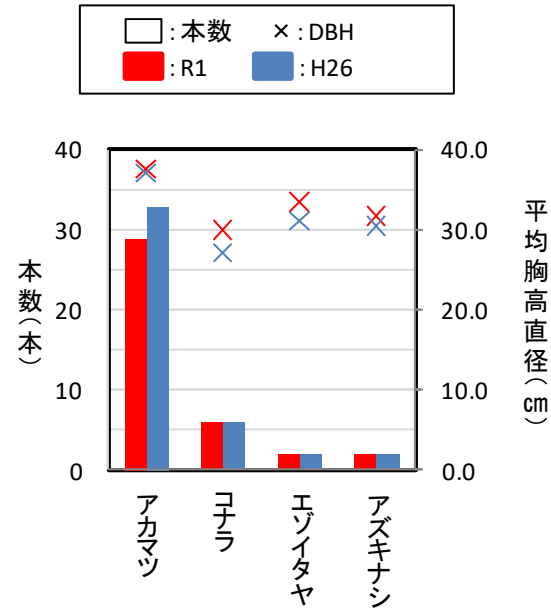
プロット2



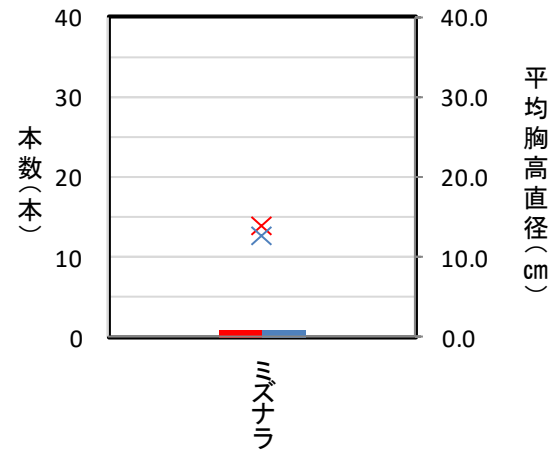
全天球写真 プロット2

樹木の生育状況に目立った変化は見られなかった

▼樹木の生育状況



プロット2  
大径木の樹種別本数・胸高直径



プロット2  
中径木の樹種別本数・胸高直径

樹木の生育状況に目立った変化は見られなかった

## ▼下層植生の生育状況

種名	プロット2	
	R1	H26
コブシ	○	○
オオモミジ	○	○
アカイタヤ	○	○
ウリハダカエデ	○	
コシアブラ	○	
アオダモ	○	
アカマツ		○
クリ		○
ミズナラ		○
コナラ		○
ホオノキ		○
アズキナシ		○
エゾイタヤ		○
ミズキ		○
ヤチダモ		○
クマイザサ	◎	○
イワガラミ	○	○
ツタウルシ	○	○
ツルアジサイ	○	
ツルウメモドキ	○	
ホナガクマヤナギ	○	
ケチヂミザサ	○	
種数	13種	15種



プロット2

下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった

注1) H26年度はプロット内全てが、R1年度はN区,S区が調査範囲であるため、調査面積は異なる。

注2) ○：確認種、◎：優占種(R1のみ)

## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：森林の被害状況

### ○ 調査項目1：山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査

[評価の観点] 災害がどこで発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：災害履歴情報等（災害復旧、防災関連事業）を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理

### ○ 調査項目2：病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査

[評価の観点] 病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査
- ・ 森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・ 森林詳細調査：プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査

## ▼山火事・山腹崩壊等の災害及び病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況

山火事	記録なし
山腹崩壊・地すべり	記録なし
病虫害	記録なし
鳥獣害	記録なし
気象害	記録なし



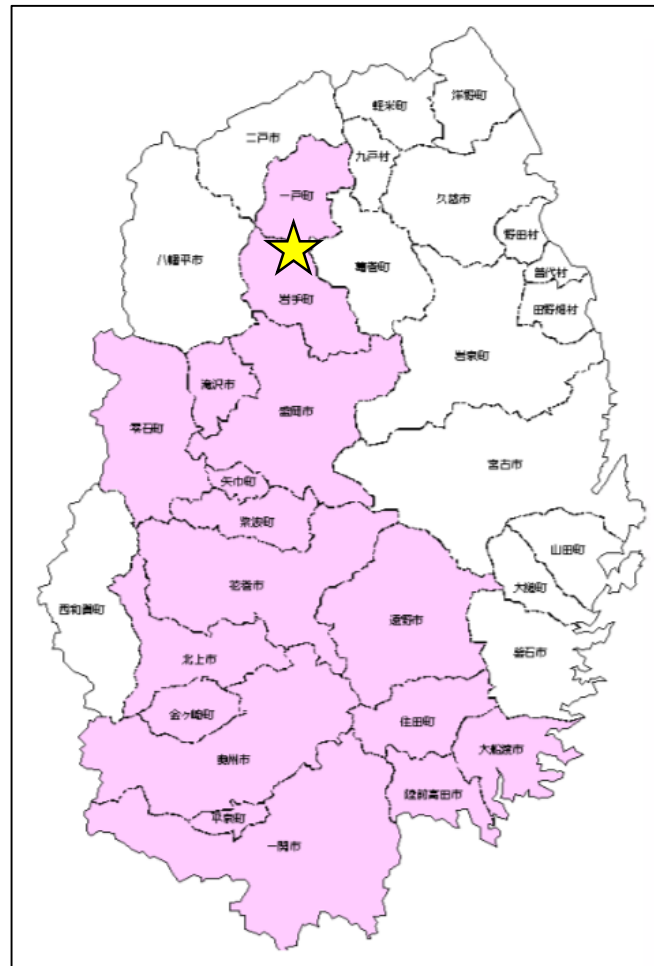
保護林内の松枯れの状況  
(ドローンによる撮影、R1/9)

※管轄森林管理署への聞き取り、現地調査による

### 森林被害は確認されなかった

なお、単木的な松枯れが確認され、検体を採取し、検査したところマツノザイセンチュウは検出されなかったが、伐倒くん蒸を計画している

## ▼山火事・山腹崩壊等の災害及び病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況



★ 調査対象保護林

平成29年岩手県松くい虫被害市町村  
(岩手県森林審議会松くい虫対策部会 資料より)

周辺地域での松くい虫被害の発生が確認されている

## デザインに関する評価

- 基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている
- 指標：希少個体群の生息・生育環境となる森林の状況、森林の被害状況

- ・ 森林タイプの分布及び樹木・下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった
- ・ 外来種は確認されなかった
- ・ 保護林内では単木的な松枯れが確認され、周辺地域では松くい虫被害が確認されている



## 観点2 価値

基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している

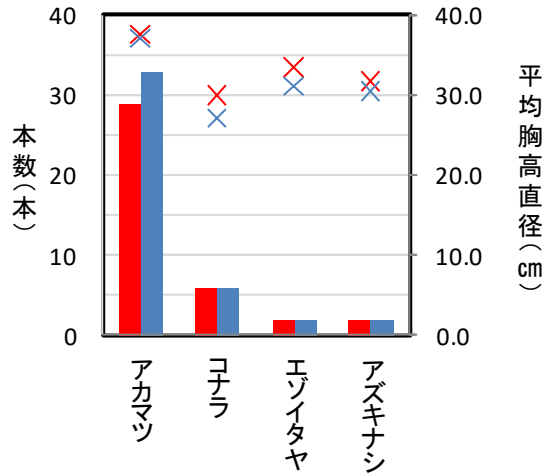
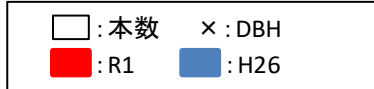
指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

○調査項目：保護対象樹種の生育・生息状況調査

[評価の観点] 対象個体群が減少していたり被害を受けていないか

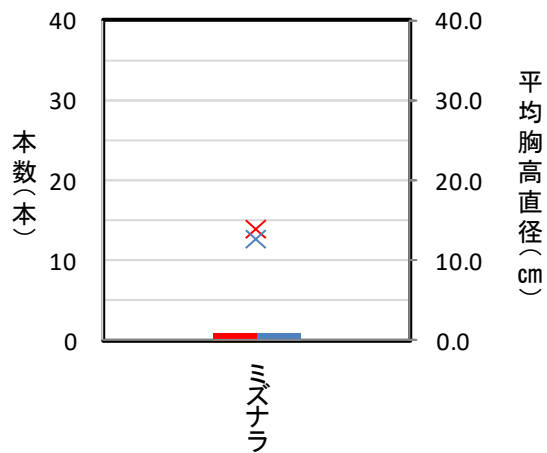
- ・森林詳細調査：プロット内の対象樹種を計測し、全天球写真を利用してプロットの状態を定点観察

▼アカマツの生育状況



プロット2

大径木の樹種別本数・胸高直径



プロット2

中径木の樹種別本数・胸高直径



プロット2

- ・プロットにおける、保護対象のアカマツの生育状況に目立った変化は見られなかった
- ・保護林内で、単木的に松枯れが確認された

## 価値に関する評価

- 基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している
- 指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

- ・ **プロット内の保護対象のアカマツについて、生育状況に目立った変化は見られなかった**
- ・ **保護林内で、単木的に松枯れが確認された**

## 観点3 利活用

基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている

指標：学術研究での利用

○調査項目：論文等の発表状況調査

[評価の観点] 主にどのような学術研究に利用されているか

- ・資料調査：インターネット等を利用し学術論文数等を整理、森林管理署に入林状況を確認

## 観点4 管理体制

基準：適切な管理体制が整備されている

指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

○調査項目：巡視の実施状況等調査

[評価の観点] 保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業及び取り組みとなっているか

- ・聞き取り調査：森林管理署への聞き取り

## ▼学術研究での利用状況

- ・インターネットによる論文検索で、下記の文献が確認された  
「北上山地中央部で新たに確認された希少種2種とその生育環境」（岩手植物の会会報）
- ・森林管理署への聞き取りでは、学術研究での入林は確認されなかった

## 利活用に関する評価

- 基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている
- 指標：学術研究での利用

**学術研究への利用が確認された**

## ▼巡視の実施状況

- ・盛岡森林管理署で定期的に巡視を実施している。
- ・保護林周辺のアカマツ林で松枯れの発生がみられ、マツノザイセンチュウの検出はされていないが、疑わしいものについては伐倒・燻蒸処理を行っている。
- ・令和元年秋に保護林内で確認された松枯れ木についても、伐倒・燻蒸処理を予定している。
- ・民有林とも連携し、これらの松くい被害対策に取り組んでいるところ。

## 管理体制に関する評価

- 基準：適切な管理体制が整備されている
- 指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

**状況に対応した必要な管理体制が取られている**



**継続して松枯れ被害に対応した保護・管理が必要である**

<p>今回の評価を踏まえた 今後の対応について</p>	<p>「保護・管理及び利用に関する事項」 (保護林管理方針書)</p>	<p>モニタ リング 間隔</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な巡視を継続</li> <li>・ 5年後に モニタリングを実施</li> </ul>	<p>自然の推移に委ねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。</p> <p style="color: red;">周辺地域の松くい虫被害に注視しつつ、松枯れ被害に対応した保護・管理を継続していく。</p>	<p>5年</p>

A photograph of a dense forest with sunlight filtering through the trees. The text is overlaid on a semi-transparent grey box in the upper left quadrant.

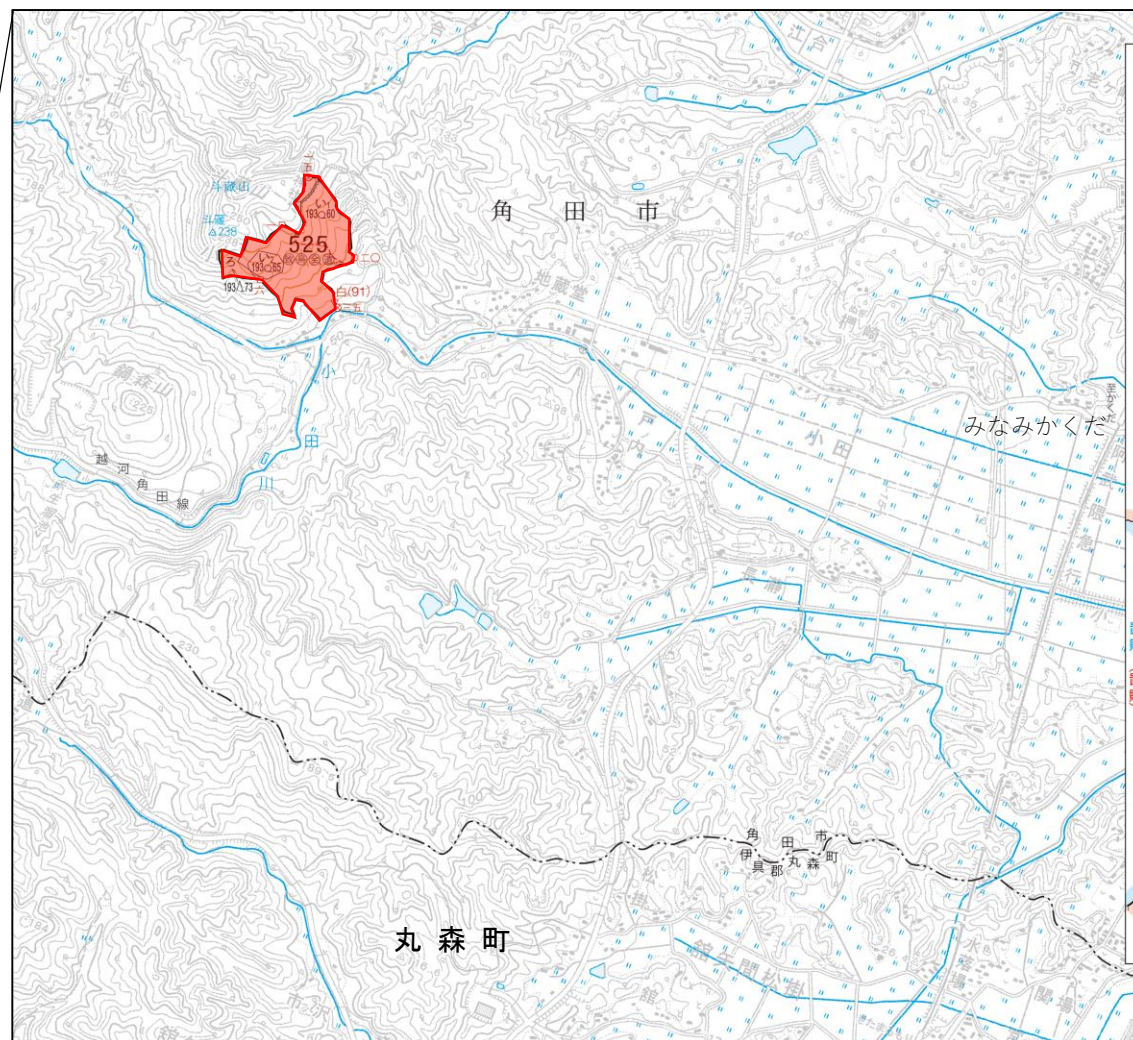
斗蔵山ウラジロガシ遺伝資源  
希少個体群保護林  
【宮城南部森林計画区】

# 斗蔵山ウラジロガシ遺伝資源希少個体群保護林

## <概要>

- ・ 位置 宮城県角田市斗蔵山国有林
- ・ 個体群 ウラジロガシ天然林
- ・ 面積 11.94ha
- ・ 法指定 風致保安林、  
斗蔵山県自然環境保全地域  
特別地区
- ・ 署等 仙台森林管理署

- ・ 設定目的等  
北限のウラジロガシ天然林の保存



# 希少個体群保護林のモニタリング調査

## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：希少個体群の生育・生息環境となる森林の状況

### ○調査項目1：森林タイプの分布等状況調査

[評価の観点] 保護林内及び周辺の森林タイプの構成が変化することで対象個体群の生育・生息環境に影響が生じていないか

- ・資料調査：最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林情報図（森林タイプごとの面積・分布）を整理

### ○調査項目2：樹木の生育状況調査

[評価の観点] 樹木の生育が対象個体群の生育・生息環境として適切な状態にあるか

- ・森林概況調査：調査表を利用し、樹木の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測して樹木の生育状況を定点観察

### ○調査項目3：下層植生の生育状況調査

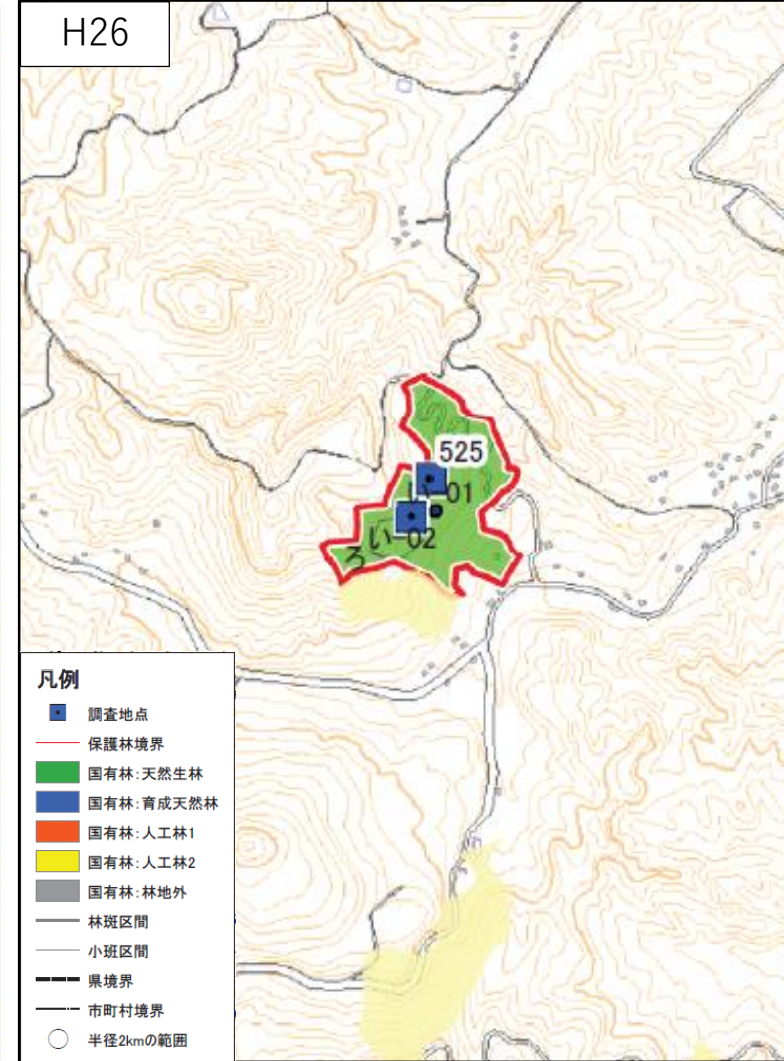
[評価の観点] 対象個体群の生育・生息環境として必要な植物は豊富か、外来種等が増えていないか

- ・森林概況調査：調査表及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内に出現する全ての種を記録し、下層植生の生育状況を定点観察

▼ 森林タイプの分布状況

森林タイプの分布に変化は確認されなかった

※類似林分と見られるプロットについては、効率的な事業執行の観点から、一方を調査対象としなかった。



▼樹木の生育状況

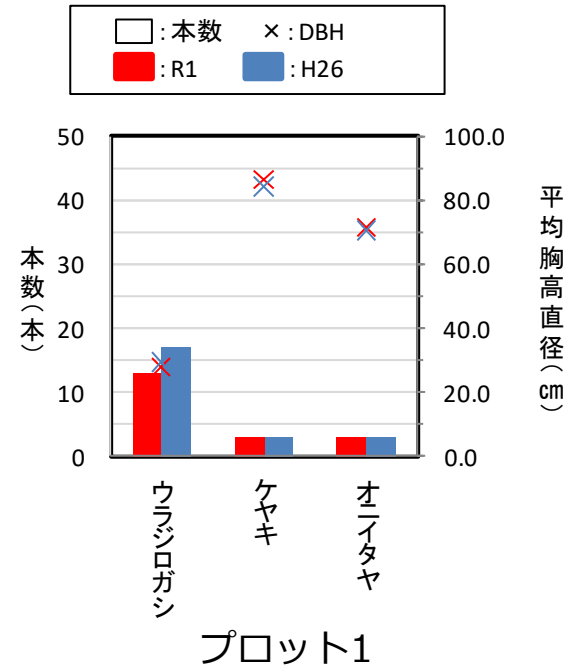


プロット1

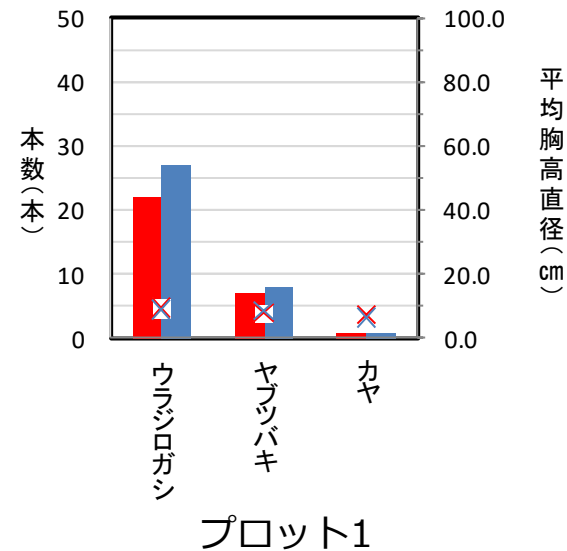


全天球写真 プロット1

▼樹木の生育状況調査



大径木の樹種別本数・胸高直径



中径木の樹種別本数・胸高直径

樹木の生育状況に目立った変化は見られなかった



## ▼下層植生の生育状況

種名	プロット1	
	R1	H26
イヌガヤ	○	○
ウラジロガシ	◎	○
シロダモ	○	○
ヤブツバキ	○	○
チャノキ	○	○
アオキ	◎	○
モミ		○
スギ		○
カヤ		○
イヌシデ		○
エノキ		○
ケヤキ		○
ミツデカエデ		○
オニイタヤ		○
テイカカズラ	○	○
オオバジャノヒゲ	○	○
フジ	○	
アマチャヅル	○	
キツタ	○	
ナガバジャノヒゲ	○	
ツタ		○
種数	12種	17種



プロット1

下層植生の生育状況に  
目立った変化は見られ  
なかった

## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：森林の被害状況

### ○ 調査項目1：山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査

[評価の観点] 災害がどこで発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：災害履歴情報等（災害復旧、防災関連事業）を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理

### ○ 調査項目2：病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査

[評価の観点] 病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査
- ・ 森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・ 森林詳細調査：プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査

## ▼山火事・山腹崩壊等の災害及び病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況

山火事	記録なし
山腹崩壊・地すべり	記録なし
病虫害	ウラジロガシのナラ枯れ
鳥獣害	記録なし
気象害	記録なし

※管轄森林管理署への聞き取り、現地調査による

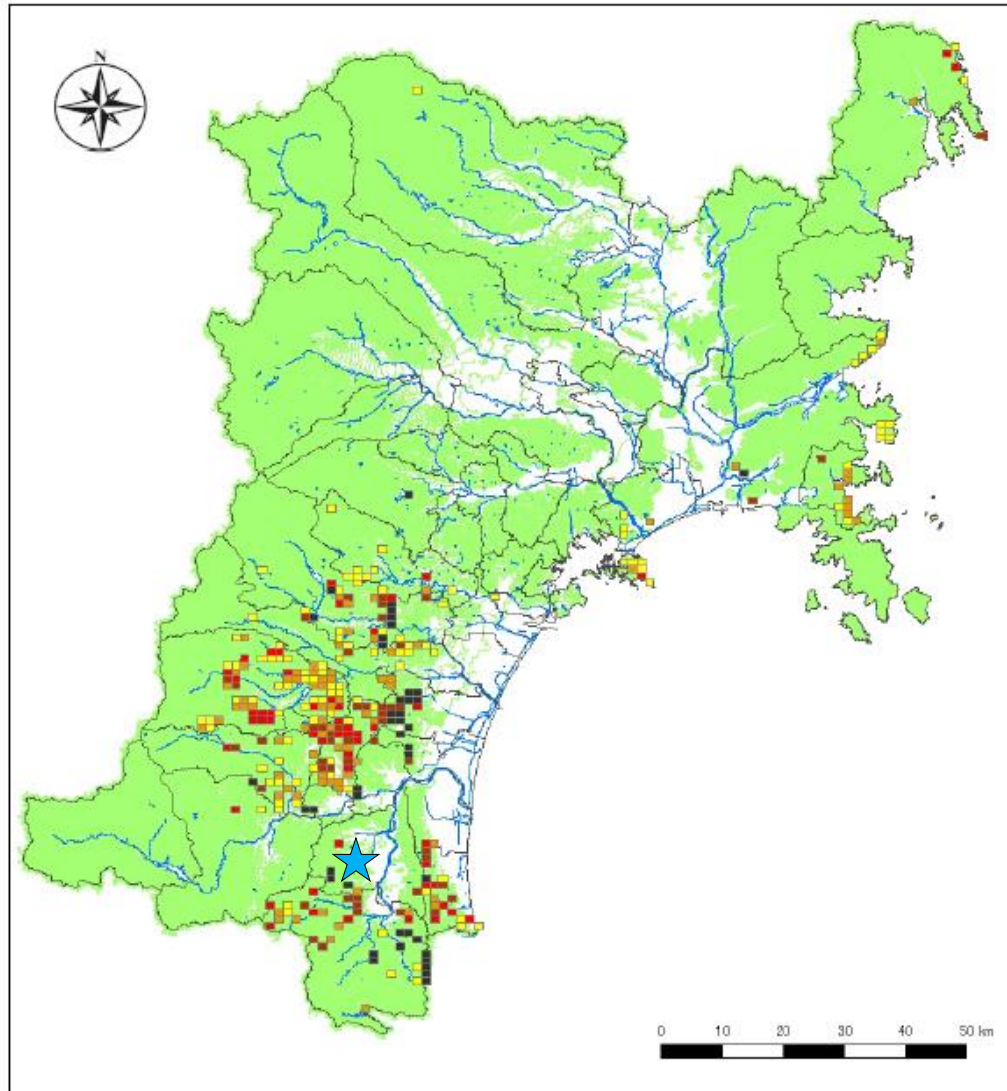


ウラジロガシの伐倒くん蒸

**ナラ枯れが確認された**

## ▼ナラ枯れの発生状況

平成30年度宮城県ナラ枯れ発生位置図



©Miyagi Prefectural Forestry Technology Institute 2019

※宮城県HPより引用・改変

周辺地域においてナラ枯れが発生している

## デザインに関する評価

- 基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要となる更新適地等が維持されている
- 指標：希少個体群の生息・生育環境となる森林の状況、森林の被害状況

- ・ 森林タイプの分布及び樹木・下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった
- ・ ナラ枯れの発生が確認された

## 観点2 価値

基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している

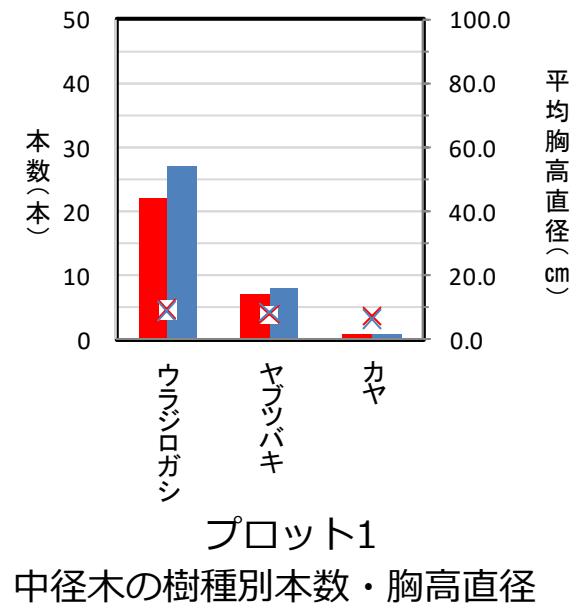
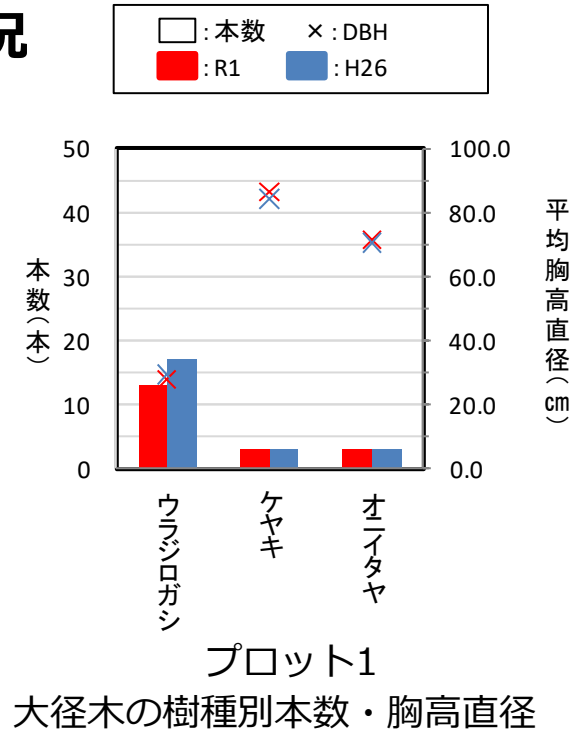
指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

○調査項目：保護対象樹種の生育・生息状況調査

[評価の観点] 対象個体群が減少していたり被害を受けていないか

- ・森林詳細調査：プロット内の対象樹種を計測し、全天球写真を利用してプロットの状況を定点観察

▼ウラジログシの生育状況



・プロット内では確認されていないが保護林内では、保護対象のウラジログシにナラ枯れが発生している

## 価値に関する評価

- 基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している
- 指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

**ウラジロガシにナラ枯れが発生している**



## 観点3 利活用

基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている

指標：学術研究での利用

○調査項目：論文等の発表状況調査

[評価の観点] 主にどのような学術研究に利用されているか

- ・資料調査：インターネット等を利用し学術論文数等を整理、森林管理署に入林状況を確認

## 観点4 管理体制

基準：適切な管理体制が整備されている

指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

○調査項目：巡視の実施状況等調査

[評価の観点] 保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業及び取り組みとなっているか

- ・聞き取り調査：森林管理署への聞き取り

## ▼学術研究での利用状況

- ・インターネットによる論文検索では、学術論文等は確認されなかった
- ・森林管理署への聞き取りでも、学術研究での入林は確認されなかった

## 利活用に関する評価

- 基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている
- 指標：学術研究での利用

**学術研究への利用は確認されなかった**

## ▼巡視の実施状況

- ・ 仙台森林管理署で定期的な巡視を実施している。
- ・ 平成30年度にウラジロガシにカシノナガキクイムシによる枯損が発生しているのが確認された。  
仙台森林管理署で継続して被害の発生状況を調査し、健全木への蔓延を防ぐため、被害木の伐倒くん蒸処理を実施している。
- ・ ナラ枯れ被害木処理に当たっては、本保護林は旧林木遺伝資源保存林のため、東北育種場に対応方法や手続き等について確認して実施している。
- ・ 令和元年秋に現地調査したところ、新たな被害木は確認されなかった。

## 管理体制に関する評価

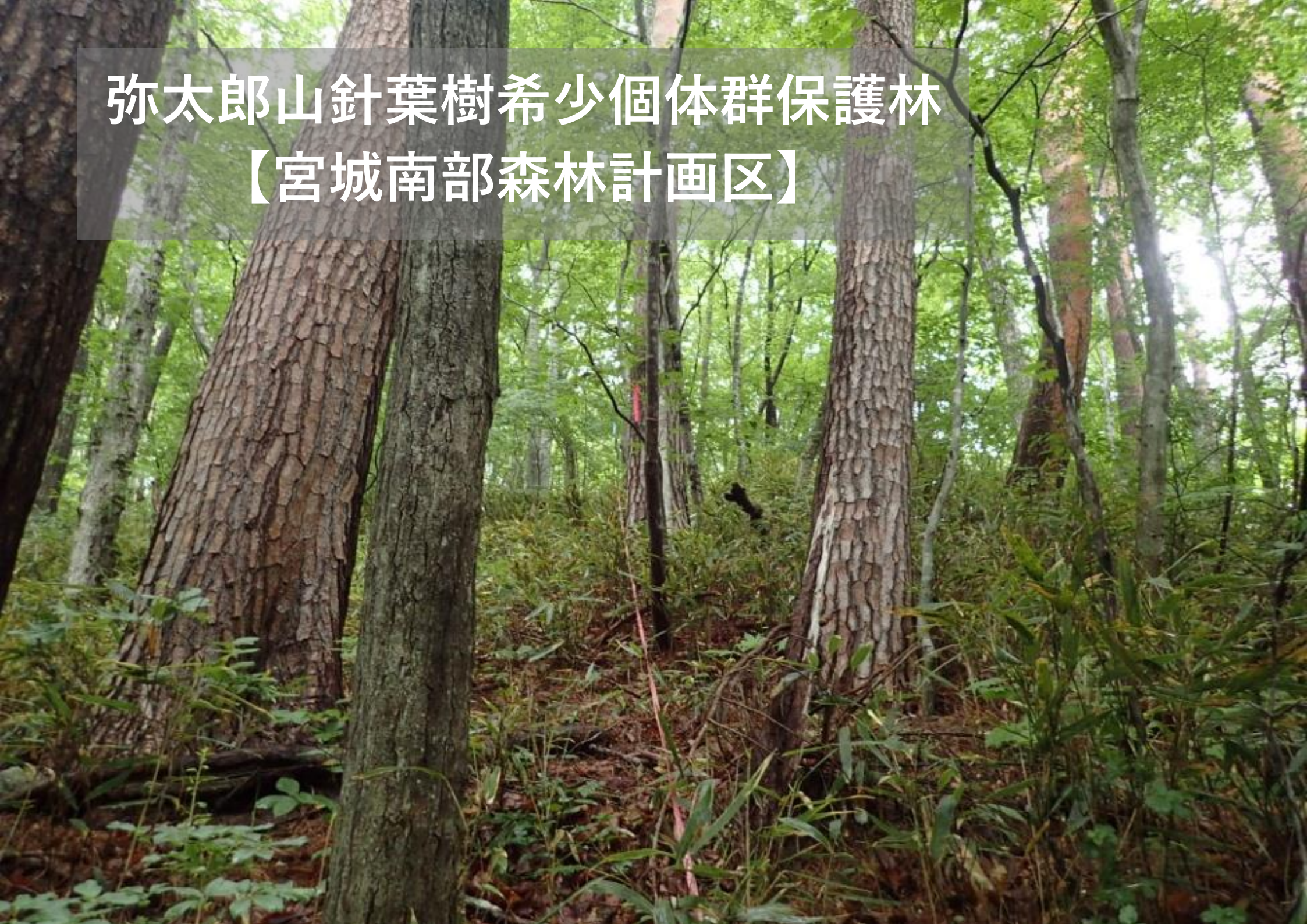
- 基準：適切な管理体制が整備されている
- 指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

**状況に対応した必要な管理体制が取られている**

**継続してナラ枯れ被害に対応した保護・管理が必要である**

<p>今回の評価を踏まえた 今後の対応について</p>	<p>「保護・管理及び利用に関する事項」 (保護林管理方針書)</p>	<p>モニタ リング 間隔</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な巡視を継続</li> <li>・ 5年後に モニタリングを実施</li> </ul>	<p>自然の推移に委ねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。</p> <p style="color: red;">ナラ枯れ被害に対応した保護・管理を継続していく。</p>	<p>10年 ↓ 5年</p>

弥太郎山針葉樹希少個体群保護林  
【宮城南部森林計画区】

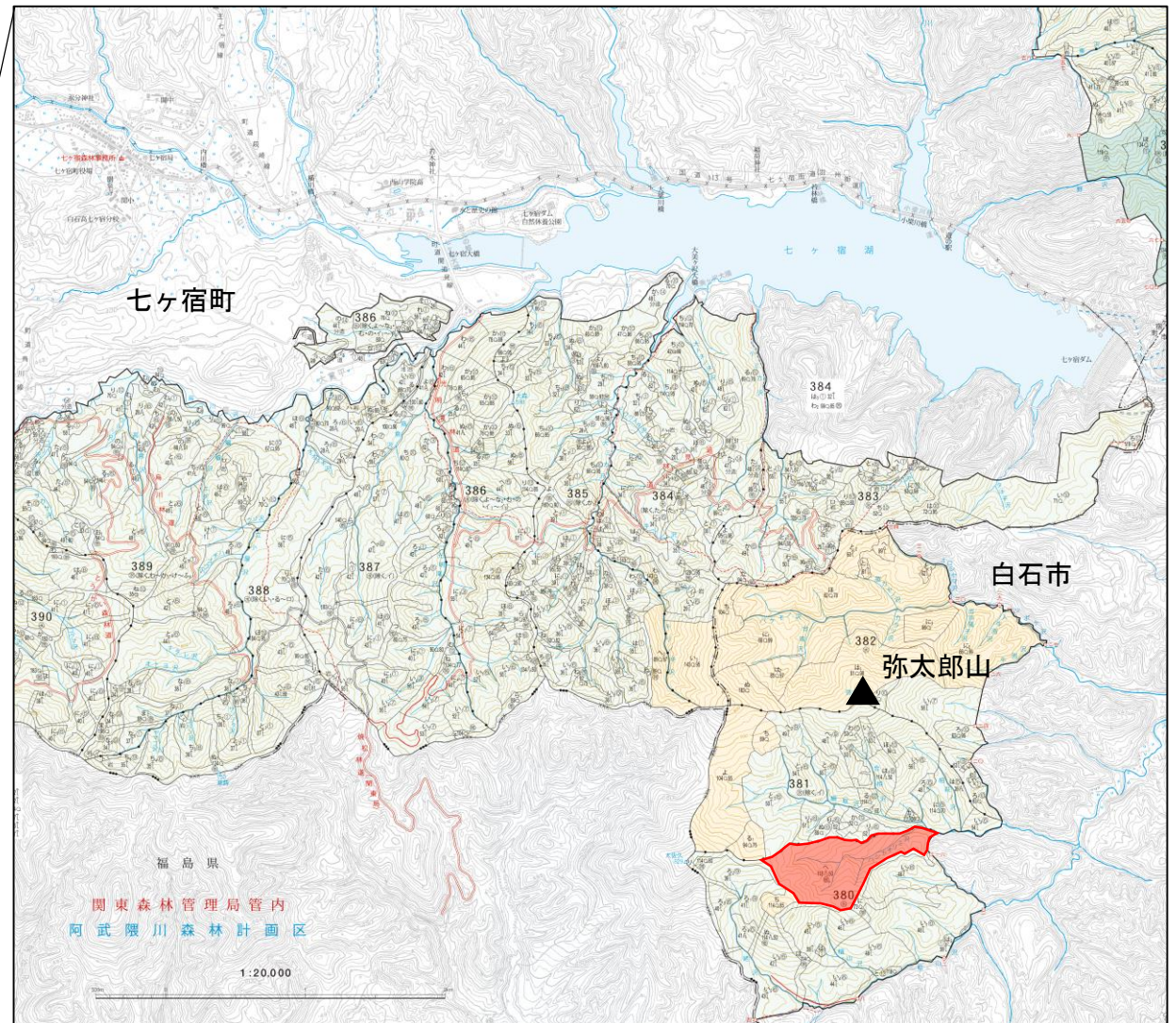




# 弥太郎山針葉樹希少個体群保護林

## <概要>

- ・ 位置 宮城県白石市弥太郎山国有林
  - ・ 個体群 アカマツ、モミ等の天然林
  - ・ 面積 35.36ha
  - ・ 法指定 水源かん養保安林
  - ・ 署等 仙台森林管理署
- ・ 設定目的等  
アカマツ、モミ、ヒメコマツ及びヒバの天然林で、この林分を保存する



## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：希少個体群の生育・生息環境となる森林の状況

### ○調査項目1：森林タイプの分布等状況調査

[評価の観点] 保護林内及び周辺の森林タイプの構成が変化することで対象個体群の生育・生息環境に影響が生じていないか

- ・資料調査：最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林情報図（森林タイプごとの面積・分布）を整理

### ○調査項目2：樹木の生育状況調査

[評価の観点] 樹木の生育が対象個体群の生育・生息環境として適切な状態にあるか

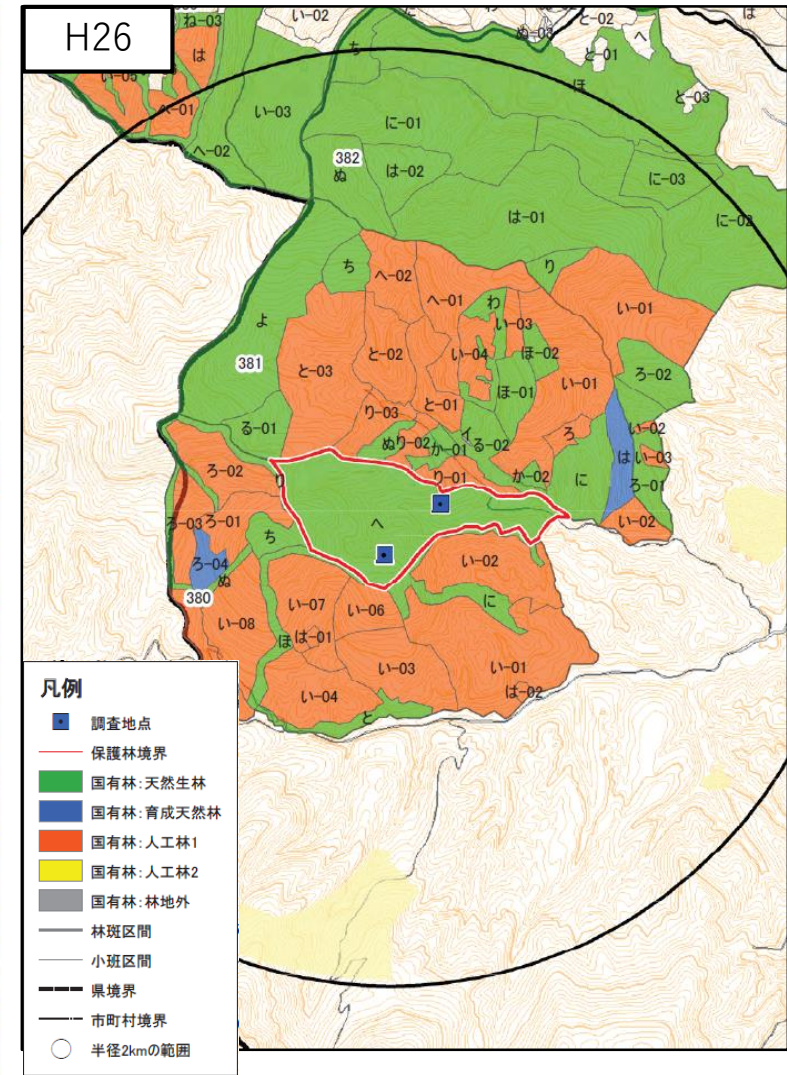
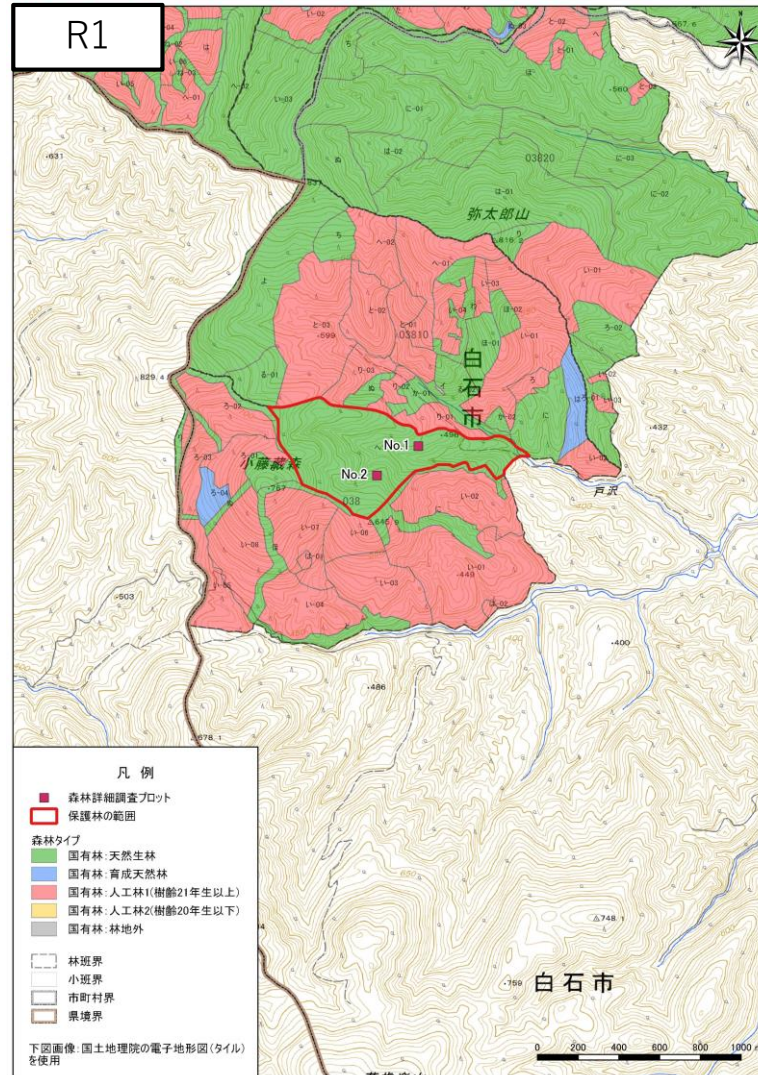
- ・森林概況調査：調査表を利用し、樹木の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測して樹木の生育状況を定点観察

### ○調査項目3：下層植生の生育状況調査

[評価の観点] 対象個体群の生育・生息環境として必要な植物は豊富か、外来種等が増えているか

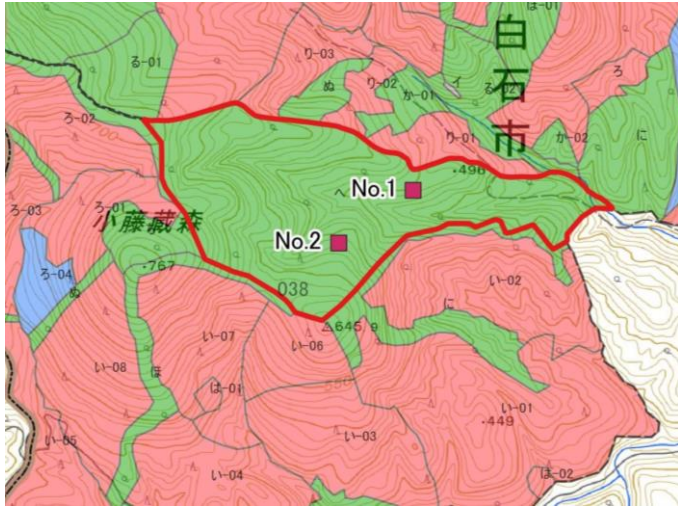
- ・森林概況調査：調査表及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内に出現する全ての種を記録し、下層植生の生育状況を定点観察

▼ 森林タイプの分布状況



保護林及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった

▼樹木の生育状況



プロット1



全天球写真 プロット1

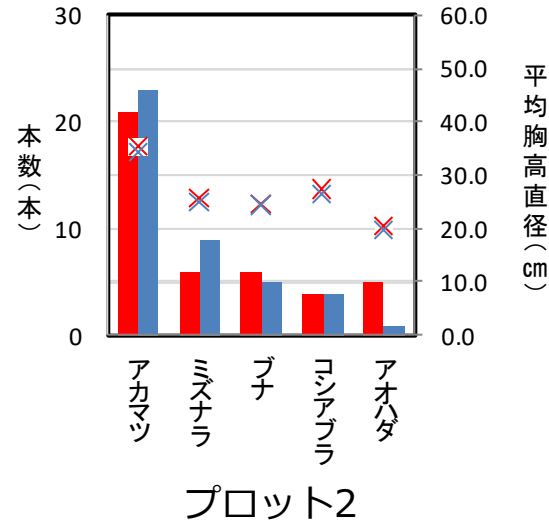
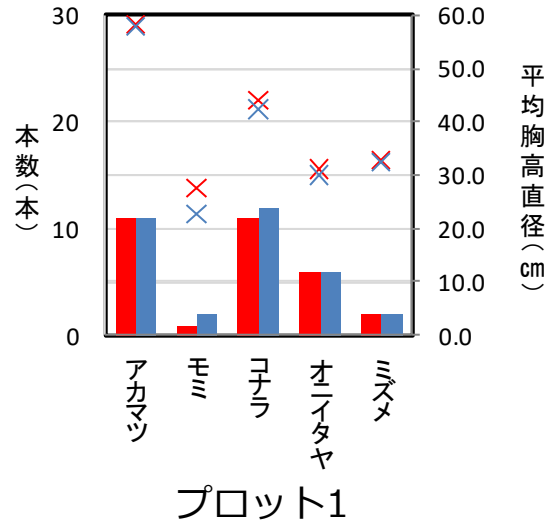
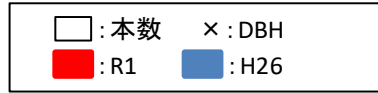


プロット2

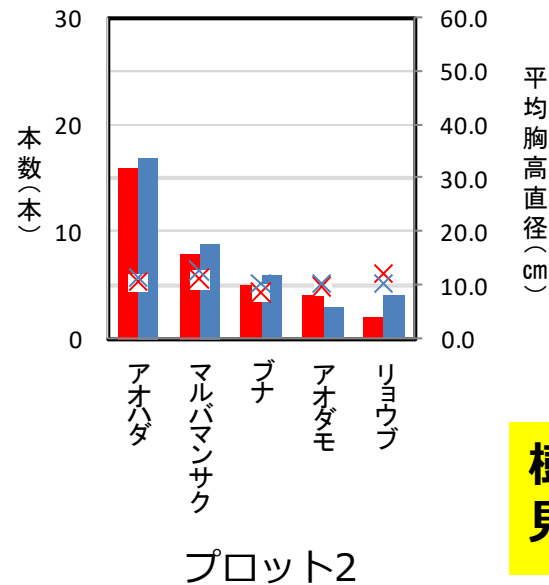
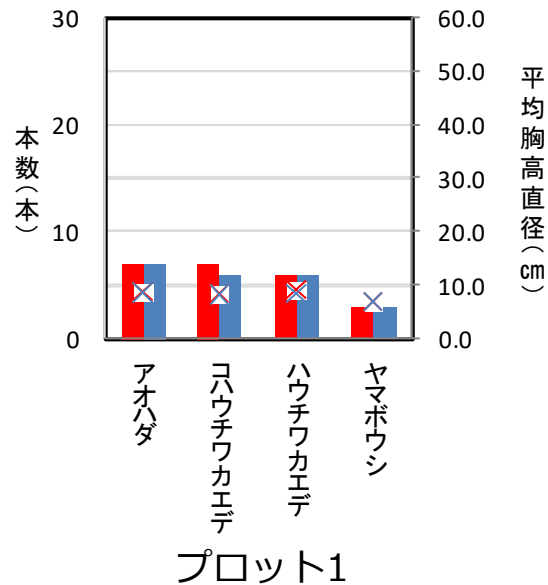


全天球写真 プロット2

▼樹木の生育状況



大径木の樹種別本数・胸高直径



中径木の樹種別本数・胸高直径

樹木の生育状況に目立った変化は見られなかった

▼下層植生の生育状況

種名	プロット1		プロット2	
	R1	H26	R1	H26
コミネカエデ	○	○	○	○
リョウブ	○	○	○	○
バイカウツジ	○	○	○	○
アカマツ	○	○	○	○
ミスナラ	○	○	○	○
ウリハダカエデ	○	○	○	○
コシアブラ	○	○	○	○
オオバクロモジ	○	○	○	○
タムシバ	○	○	○	○
コハウチワカエデ	○	○	○	○
マツサ	○	○	○	○
シラキ	○	○	○	○
ハウチワカエデ	○	○	○	○
ムラサキシキブ	○	○	○	○
ハイヌツゲ	○	○	○	○
アクシバ	○	○	○	○
アオダモ	○	○	○	○
ウウミスザクラ	◎	○	○	○
ウラジロヨウラク	○	○	○	○
ミヤマガマズミ	○	○	○	○
ミズメ	○	○	○	○
ブナ	○	○	○	○
マンサク	○	○	○	○
イヌツゲ	○	○	○	○
アオハダ	○	○	○	○
ヒトツバカエデ	○	○	○	○
ホツツジ	○	○	○	○
オオカメノキ	○	○	○	○
イヌブナ	○	○	○	○
ケヤキ	○	○	○	○
ホオノキ	○	○	○	○
カスミザクラ	○	○	○	○
ウラジロノキ	○	○	○	○
イタヤカエデ	○	○	○	○
ハリギリ	○	○	○	○
エゴノキ	○	○	○	○
ハクウンボク	○	○	○	○
ガマズミ	○	○	○	○
モミ	○	○	○	○
サウシバ	○	○	○	○
アカシデ	○	○	○	○
クリ	○	○	○	○
コナラ	○	○	○	○
クロモジ	○	○	○	○
カツラ	○	○	○	○
モミジイチゴ	○	○	○	○
オオモミジ	○	○	○	○
ウラゲエンコウカエデ	○	○	○	○
オニイタヤ	○	○	○	○
ヤマボウシ	○	○	○	○
ヤマウルシ	○	○	○	○
ツカハネツギ属の一種	○	○	○	○
アズキナシ	○	○	○	○
タカノツメ	○	○	○	○
サラサドウダン	○	○	○	○
ハナヒリノキ	○	○	○	○
ヤマツツジ	○	○	○	○
シロヤシオ	○	○	○	○
スズタケ	◎	○	◎	○
イワガラミ	○	○	○	○
テヨユリ	○	○	○	○
ツクバネソウ	○	○	○	○
ツルアリドオン	○	○	○	○
ハンショウツル	○	○	○	○
フジ	○	○	○	○
ツタウルシ	○	○	○	○
アワブキ	○	○	○	○
タチツボスミレ	○	○	○	○
オヤリハグマ	○	○	○	○
ヤマユリ	○	○	○	○
ヤマフジ	○	○	○	○
ショウジョウバカマ	○	○	○	○
種数	37種	36種	20種	28種



プロット1

プロット2

下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった

注1) H26年度はプロット内全てが、R1年度はN区,S区が調査範囲であるため、調査面積は異なる。

注2) ○：確認種、◎：優占種(R1のみ)

## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：森林の被害状況

### ○ 調査項目1：山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査

[評価の観点] 災害がどこで発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：災害履歴情報等（災害復旧、防災関連事業）を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理

### ○ 調査項目2：病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査

[評価の観点] 病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査
- ・ 森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・ 森林詳細調査：プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査

## ▼山火事・山腹崩壊等の災害及び病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況

山火事	記録なし
山腹崩壊・地すべり	記録なし
病虫害	記録なし
鳥獣害	記録なし
気象害	記録なし

※管轄森林管理署への聞き取り、現地調査による

**森林被害は確認されなかった**



## デザインに関する評価

- 基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている
- 指標：希少個体群の生息・生育環境となる森林の状況、森林の被害状況

- ・ 森林タイプの分布及び樹木・下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった
- ・ 外来種は確認されなかった
- ・ 森林被害は確認されなかった

# 希少個体群保護林のモニタリング調査

## 観点2 価値

基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している

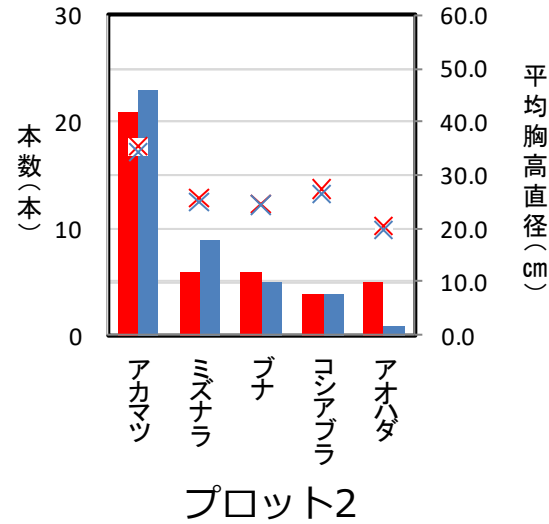
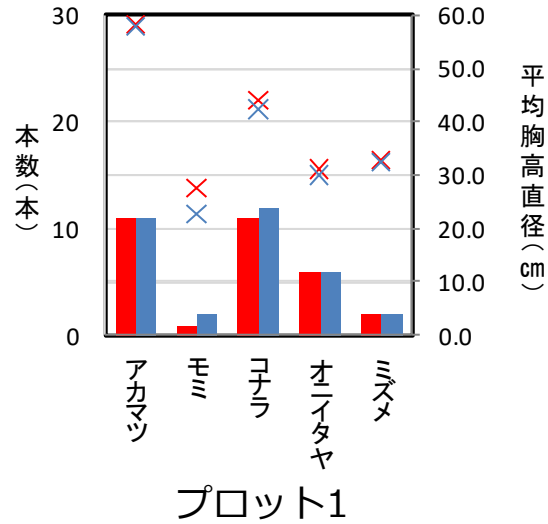
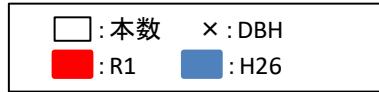
指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

○調査項目：保護対象樹種の生育・生息状況調査

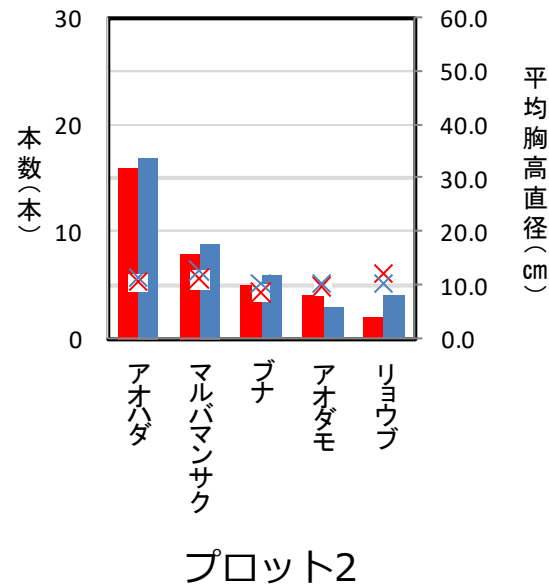
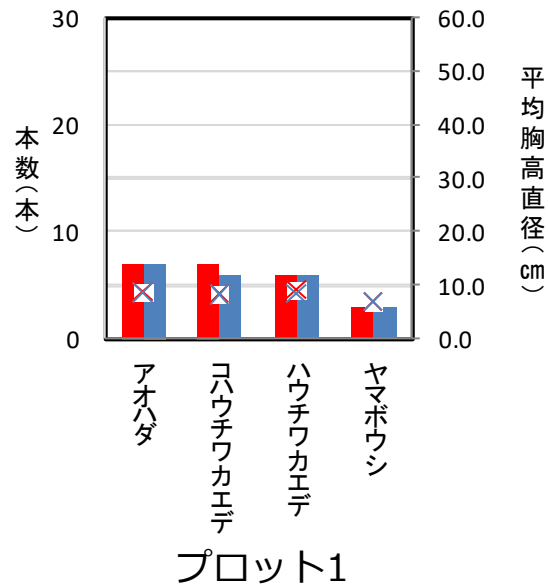
[評価の観点] 対象個体群が減少していたり被害を受けていないか

- ・森林詳細調査：プロット内の対象樹種を計測し、全天球写真を利用してプロットの状況を定点観察

▼針葉樹の生育状況



大径木の樹種別本数・胸高直径



中径木の樹種別本数・胸高直径

・ 保護対象のアカマツ等について、生育状況に目立った変化は見られなかった

・ 保護対象のアカマツ等について、被害は確認されなかった

## 価値に関する評価

- 基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している
- 指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

- ・ 保護対象のアカマツ等について、生育状況に目立った変化は見られなかった
- ・ 保護対象のアカマツ等に被害は確認されなかった

## 観点3 利活用

基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている

指標：学術研究での利用

○調査項目：論文等の発表状況調査

[評価の観点] 主にどのような学術研究に利用されているか

- ・資料調査：インターネット等を利用し学術論文数等を整理、森林管理署に入林状況を確認

## 観点4 管理体制

基準：適切な管理体制が整備されている

指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

○調査項目：巡視の実施状況等調査

[評価の観点] 保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業及び取り組みとなっているか

- ・聞き取り調査：森林管理署への聞き取り

### ▼学術研究での利用状況

- ・インターネット（Cinii等）の検索では、本保護林に関する学術論文等は確認されなかった
- ・森林管理署への聞き取りでは、学術研究での入林は確認されなかった

## 利活用に関する評価

- 基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている
- 指標：学術研究での利用

**学術研究への利用は確認されなかった**

## ▼巡視の実施状況

- ・ 仙台森林管理署では、定期的な巡視を実施している



## 管理体制に関する評価

- 基準：適切な管理体制が整備されている
- 指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

**必要な管理体制が取られている**

**前回調査から大きな変化は認められなかった**

**特に課題は確認されなかった**

<p>今回の評価を踏まえた 今後の対応について</p>	<p>「保護・管理及び利用に関する事項」 (保護林管理方針書)</p>	<p>モニタ リング 間隔</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な巡視を継続</li> <li>・ 10年後に モニタリングを実施</li> </ul>	<p>自然の推移に委ねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。</p> <p>[※現行どおりとする]</p>	<p>10年</p>

# 獅子ヶ鼻湿原希少個体群保護林 【子吉川森林計画区】



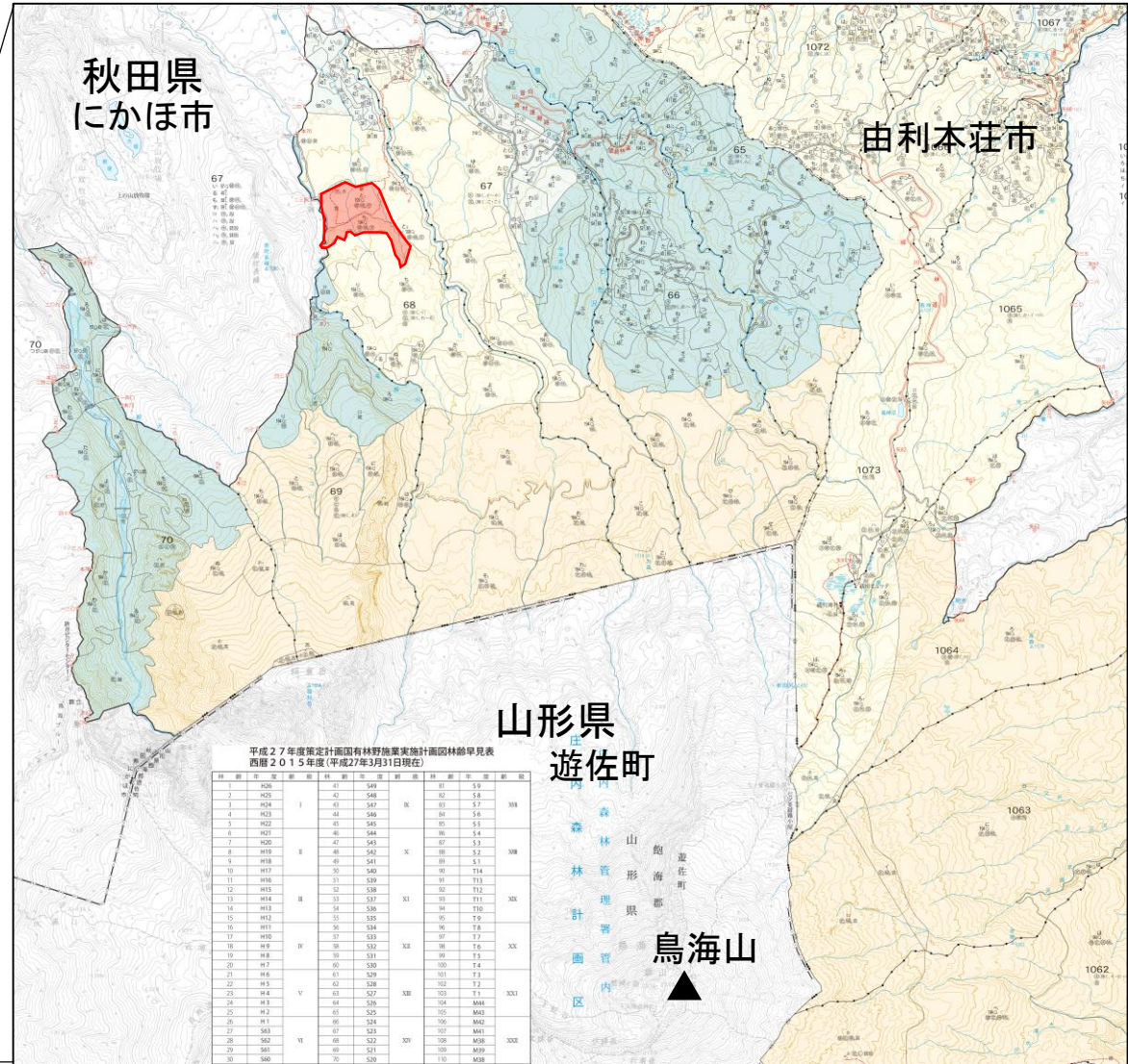
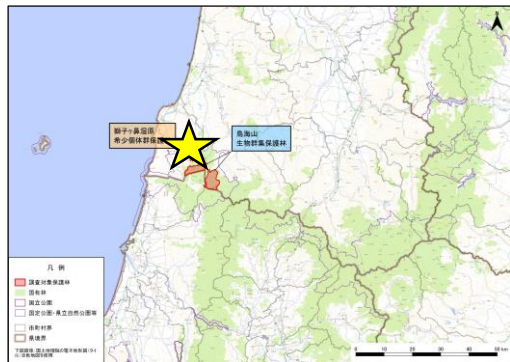
# 獅子ヶ鼻湿原希少個体群保護林

## <概要>

- ・位置 秋田県にかほ市中島岱国有林
- ・個体群 獅子ヶ鼻湿原の水生・湿原植物
- ・面積 26.11ha
- ・法指定 保健保安林、史跡名勝天然記念物、鳥海国定公園 ほか
- ・署等 由利森林管理署

### ・設定目的等

流水中及びその周辺に大量に見られるコケ類の生育状況は、他地域に類例が見られず、コケ類の規模やフロラが豊富な観点から学術上極めて高く、その水生・湿原植物の保護を目的とする



## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：希少個体群の生育・生息環境となる森林の状況

### ○調査項目1：森林タイプの分布等状況調査

[評価の観点] 保護林内及び周辺の森林タイプの構成が変化することで対象個体群の生育・生息環境に影響が生じていないか

- ・資料調査：最新の森林調査簿、国有林野施業実施計画図等を利用し、保護林情報図（森林タイプごとの面積・分布）を整理

### ○調査項目2：樹木の生育状況調査

[評価の観点] 樹木の生育が対象個体群の生育・生息環境として適切な状態にあるか

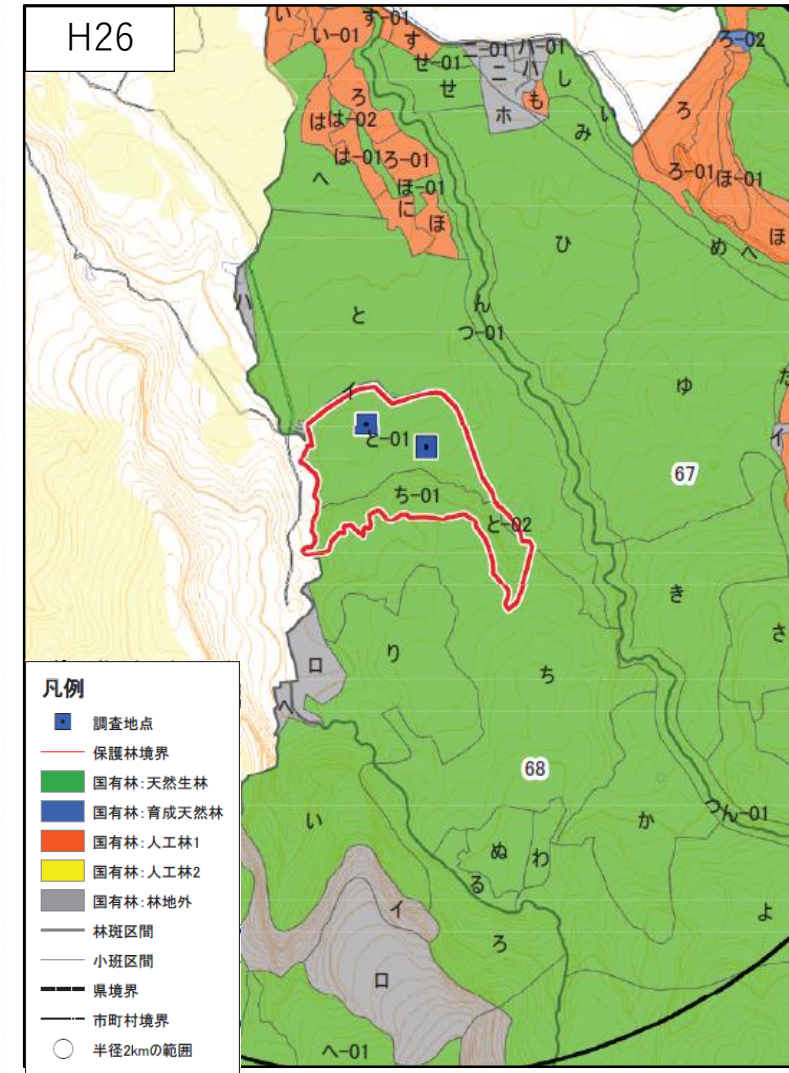
- ・森林概況調査：調査表を利用し、樹木の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内の樹木の樹種、胸高直径、樹高を計測して樹木の生育状況を定点観察

### ○調査項目3：下層植生の生育状況調査

[評価の観点] 対象個体群の生育・生息環境として必要な植物は豊富か、外来種等が増えていないか

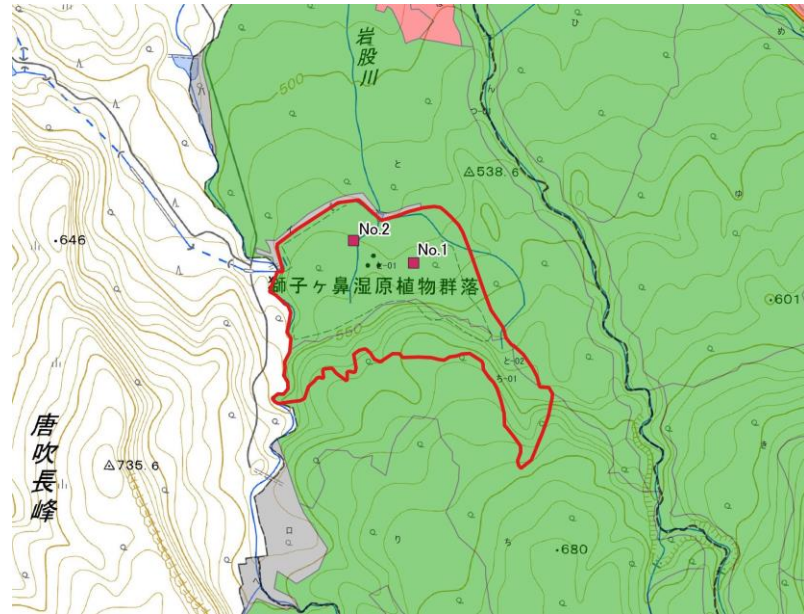
- ・森林概況調査：調査表及び全天球写真を利用し、下層植生の生育状況を観察
- ・森林詳細調査：プロット内に出現する全ての種を記録し、下層植生の生育状況を定点観察

▼ 森林タイプの分布状況



保護林内及び周辺の森林タイプの分布に変化は確認されなかった

▼樹木の生育状況



プロット1



全天球写真 プロット1



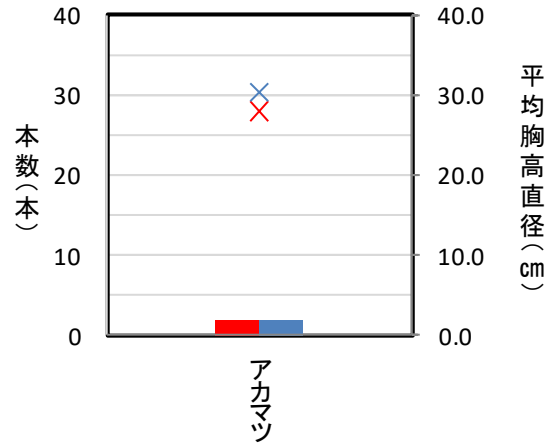
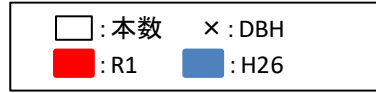
プロット2



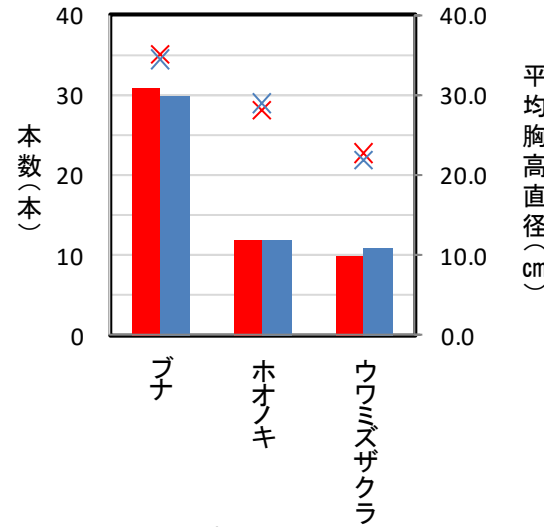
全天球写真 プロット2



▼樹木の生育状況

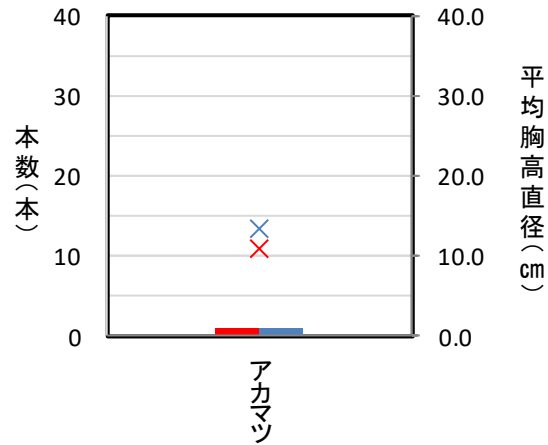


プロット1

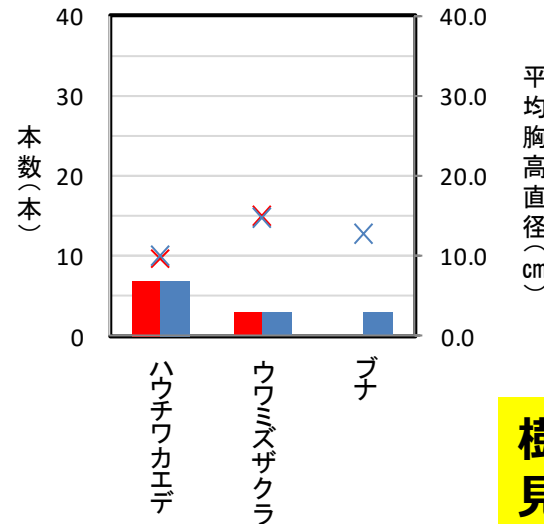


プロット2

大径木の樹種別本数・胸高直径



プロット1



プロット2

中径木の樹種別本数・胸高直径

樹木の生育状況に目立った変化は見られなかった

▼下層植生の生育状況

種名	プロット1		プロット2	
	R1	H26	R1	H26
タムシバ	○	○	○	○
ハイイヌツゲ	◎	○	○	○
リョウブ	◎	○	○	○
ミズナラ	○	○	○	○
マルバマンサク	○	○	○	○
ツルシキミ	○	○	○	○
ヤマウルシ	○	○	○	○
アカマツ	○	○	○	○
ウラジロヨウラク	○	○		
ブナ			○	○
オオバクロモジ			○	○
ウワミズザクラ			○	○
ナナカマド			○	○
ハウチワカエデ			◎	○
コシアブラ			○	○
サワフタギ			○	○
アオダモ			○	○
オオカメノキ			◎	○
コマユミ	○			
カラスシキミ	○			
ホツツジ	○			
トチノキ		○		
ハナヒリノキ		○		
ミヤマガマズミ			○	
ノリウツギ			○	
エゾユズリハ			○	
ホオノキ				○
コガクウツギ				○
エゾアジサイ				○
テツカエデ				○
アカイタヤ				○
コハウチワカエデ				○
ゼンマイ	○	○		
ショウジョウバカマ	○	○		
キンコウカ	○	○		
ヨシ	○	○		
シシガシラ		○		○
アキノキリンソウ	○			
コケ類	○			
ヤマドリゼンマイ		○		
モウセンゴケ		○		
ネバリノギラン		○		
マイヅルソウ		○		
トキソウ		○		
ツルリンドウ			○	
ヤマソテツ				○
イワガラミ				○
ツタウルシ				○
チゴユリ				○
ツクバネソウ				○
種数	18種	20種	17種	28種



プロット1

プロット2

下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった  
なおモウセンゴケはプロット内では確認されている

注1) H26年度はプロット内全てが、R1年度はN区,S区が調査範囲であるため、調査面積は異なる。

注2) ○：確認種、◎：優占種(R1のみ)

## 観点1 デザイン

基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている

指標：森林の被害状況

### ○ 調査項目1：山火事・山腹崩壊・地すべり・噴火等の災害発生状況調査

[評価の観点] 災害がどこで発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：災害履歴情報等（災害復旧、防災関連事業）を利用し、災害種類や件数、面積、分布等を整理

### ○ 調査項目2：病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況調査

[評価の観点] 病虫害・鳥獣害・気象害は発生しているか、被害状況はどの程度か

- ・ 資料調査：既存資料等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査
- ・ 森林概況調査：調査表やチェックシート等を利用し、病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を観察
- ・ 森林詳細調査：プロット内の樹木の病虫害・鳥獣害・気象害による被害状況を調査

## ▼山火事・山腹崩壊等の災害及び病虫害・鳥獣害・気象害の発生状況

山火事	記録なし
山腹崩壊・地すべり	記録なし
病虫害	ナラ枯れ
鳥獣害	記録なし
気象害	記録なし

※管轄森林管理署への聞き取り、現地調査による

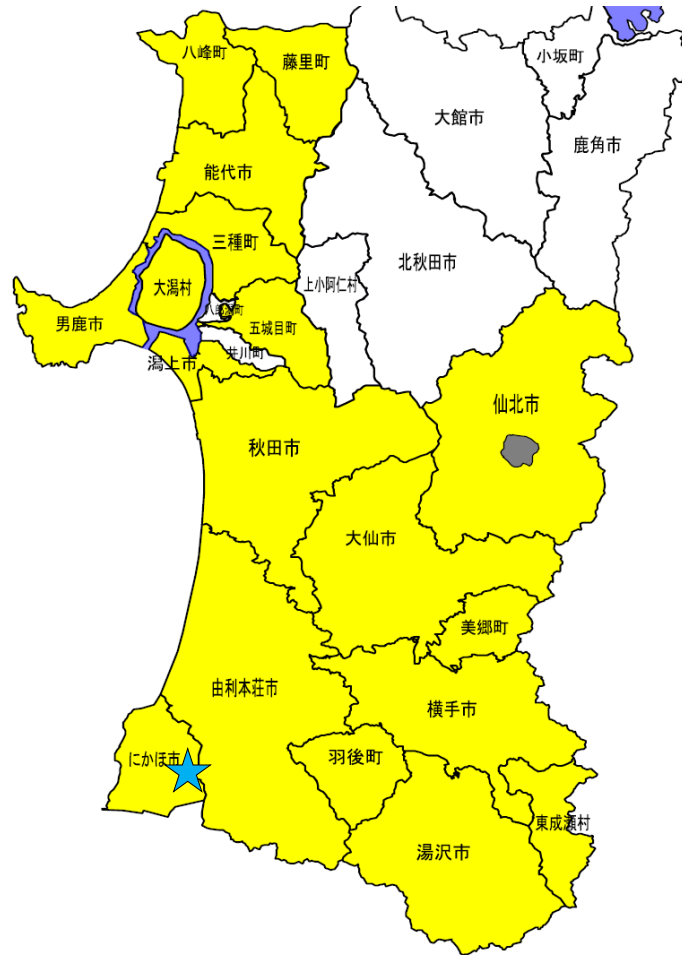


ナラ枯れ被害木の伐倒くん蒸処理

ミズナラのナラ枯れが確認された

## ▼ナラ枯れの発生状況

秋田県ナラ枯れ被害発生市町村



★ 調査対象保護林

※秋田県HPより改変 (H30.3現在)

周辺地域でナラ枯れが発生している

## デザインに関する評価

- 基準：希少な野生生物の生育・生息地及び個体群の存続に必要な更新適地等が維持されている
- 指標：希少個体群の生息・生育環境となる森林の状況、森林の被害状況

- ・ 森林タイプの分布及び樹木・下層植生の生育状況に目立った変化は見られなかった
- ・ 外来種は確認されなかった
- ・ ミズナラへのナラ枯れが確認された

## 観点2 価値

基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している

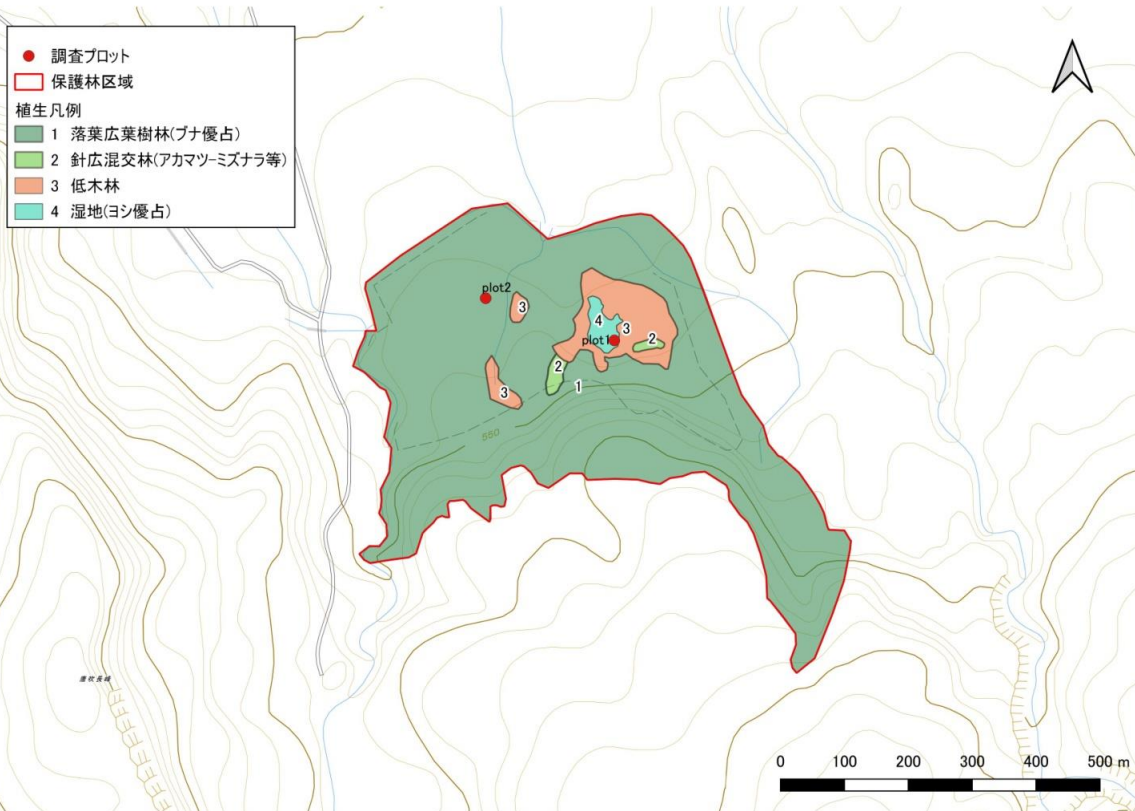
指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

○調査項目：保護対象樹種の生育・生息状況調査

[評価の観点] 対象個体群が減少していたり被害を受けていないか

- ・森林詳細調査：プロット内の対象樹種を計測し、全天球写真を利用してプロットの状況を定点観察

▼ 湿原調査



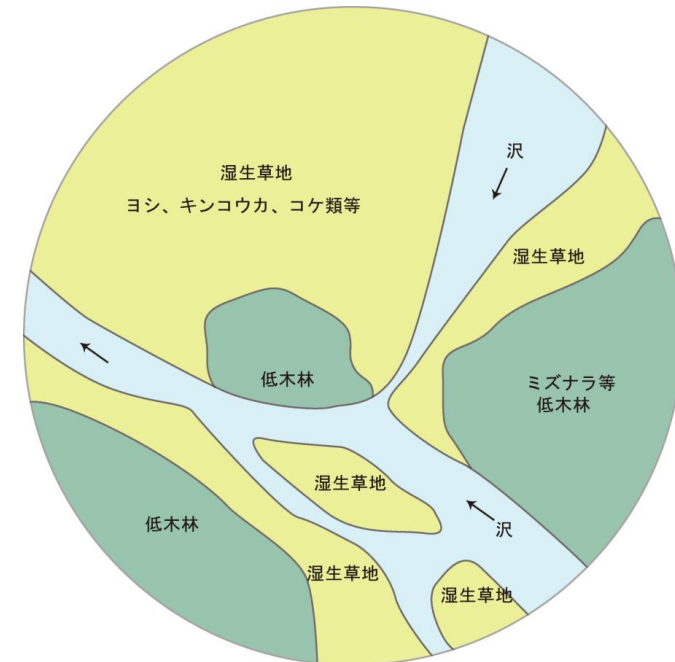
湿原の植生(R1)



プロット1の林況 (H26 調査時)



プロット1の林況 (R1 調査時)



プロット1の植生(R1)

湿原の植生に目立った変化は見られない  
 なお湿原の周囲にミズナラ等の低木林が広がっている



## 価値に関する評価

- 基準：保護対象とする希少な野生生物が健全に生育・生息している
- 指標：保護対象とする希少な野生生物の生育・生息状況

**湿原の植生に目立った変化は見られなかった**

## 観点3 利活用

基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている

指標：学術研究での利用

○調査項目：論文等の発表状況調査

[評価の観点] 主にどのような学術研究に利用されているか

- ・資料調査：インターネット等を利用し学術論文数等を整理、森林管理署に入林状況を確認

## 観点4 管理体制

基準：適切な管理体制が整備されている

指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

○調査項目：巡視の実施状況等調査

[評価の観点] 保護林の設定目的や課題に対応した管理体制、事業及び取り組みとなっているか

- ・聞き取り調査：森林管理署への聞き取り

## ▼学術研究での利用状況

- ・ インターネットによる論文検索で、下記の文献が確認された  
金澤伸浩ほか（2019）「鳥海高原花立堤の自然環境 -鳥海高原における資源探索の研究事例-」
- ・ 森林管理署への聞き取りでは、学術研究での入林は確認されなかった

## 利活用に関する評価

- 基準：森林施業・管理技術の発展、学術の研究等に利用されている
- 指標：学術研究での利用

**学術研究への利用が確認された**

## ▼巡視の実施状況

- ・ 由利森林管理署で定期的な巡視を実施している。
- ・ ミズナラにカシノナガキクイムシによる枯損が発生しているのが確認されている。  
由利森林管理署で継続して被害の発生状況を調査し、健全木への蔓延を防ぐため、被害木の伐倒くん蒸処理を実施している。

## 管理体制に関する評価

- 基準：適切な管理体制が整備されている
- 指標：保護林における事業・取組実績、巡視状況等

**状況に対応した必要な管理体制が取られている**

**湿原周辺のみズナラ等低木林に蔓延しないよう、  
継続してナラ枯れ被害に対応した保護・管理が必要である**

<p>今回の評価を踏まえた 今後の対応について</p>	<p>「保護・管理及び利用に関する事項」 (保護林管理方針書)</p>	<p>モニタ リング 間隔</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期的な巡視を継続</li> <li>・ 5年後に モニタリングを実施</li> </ul>	<p>自然の推移に委ねることを基本とし、施業等を必要とする場合には、管理経営の指針に基づき行うこととする。</p> <p style="color: red;">ナラ枯れ被害が確認されており、湿原周辺のミズナラ等低木林に蔓延しないよう、ナラ枯れ被害に対応した保護・管理を継続していく。</p>	<p>5年</p>